

A-VX ディスクビューア取扱説明書（参考版）

2015-06-16 追記

※ 下記の「2. 起動画面」以降の記述は古いバージョンのもので現在のバージョンとは差異がある場合がありますが、基本的な部分
は変わりませんので参考にしてください。ご存知のとおり対象ハードウェアは後継機が発売されず、サポートも終了するという
ことで使用される方もごく少数だと思いますので余りご要望にはお応えできないかもしれませんが、ご不明な点などは、
readme.txt に記載のメール宛ご連絡ください。

1. はじめに

本ソフトでは、Express5800/600 シリーズの MSD イメージの内容を参照、保存できます。

対象とする A-VX ファイルの種類は、FDF、DDF、SUL、PML、JSL、SPOOL、LOG 及び、それらから参照するデータファイルです。表
データ、COBOL ソース等の他システムへの移行、スプールデータの取り込みなどに使用できると思います。

1.1. 必要な環境

- XP SP3 以降/Vista/7/8/8.1 の正常に動作する PC
- MSD イメージを読める環境。（MSD イメージファイルを読める権限）
- .Net Framework 4.0 ランタイムをインストールすることが可能、または既にインストールされている。

1.2. インストール

インストール、アンインストール手順は、readme.txt に記載のとおりです。本ソフトをインストールする前に上記の環境である
ことをご確認ください。

インストール後、「ツール(T) | オプション(O)...」の「MSD イメージ」で、MSD イメージファイルを設定してください。「2.9 オ
プション」をご参照ください。ただし、ini ファイルについての記述がありますが、現バージョンではオプションの設定データ等は、
user.config に保存されます。詳細については「アプリケーション設定について」の Microsoft のページなどを適宜ご参照ください。

1.3. 注意事項

動作中の A-VX の MSD イメージを参照する場合や、ネットワークやファイルの動作状況、オプション項目の設定の誤り等により本
ソフトの動作が遅延する場合があります。

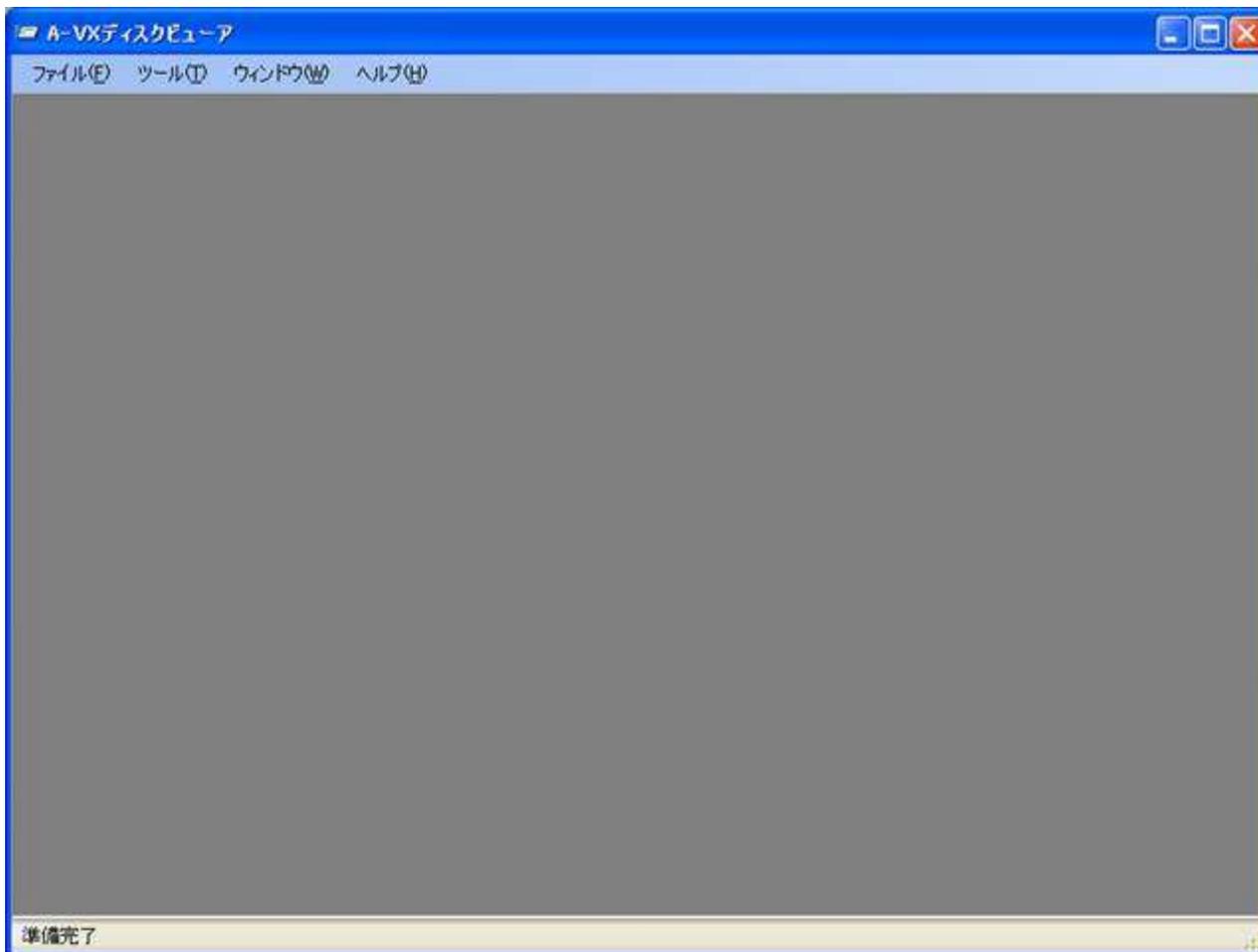
標準的または一般的な Express5800/600 シリーズの使用方法と相違のある使用方法等に基づいて作成された本ソフトの部分がある
場合はご容赦ください。

1.4. 参考文献（Web ページについては現在アクセス可能なもののみ。URL は割愛。）

- NEC オフィスプロセッサ A-VX10 データ管理説明書 BFC06-1 1992 年 5 月初版 日本電気株式会社
- C#でネットワーク接続をコントロールする方法 [Windows]
- VB アプリで my.settings を上書きアップデート後に引き継ぐ方法
- Winforms Progress bar Does Not Update (C#)
- 手書き PDF 入門
など

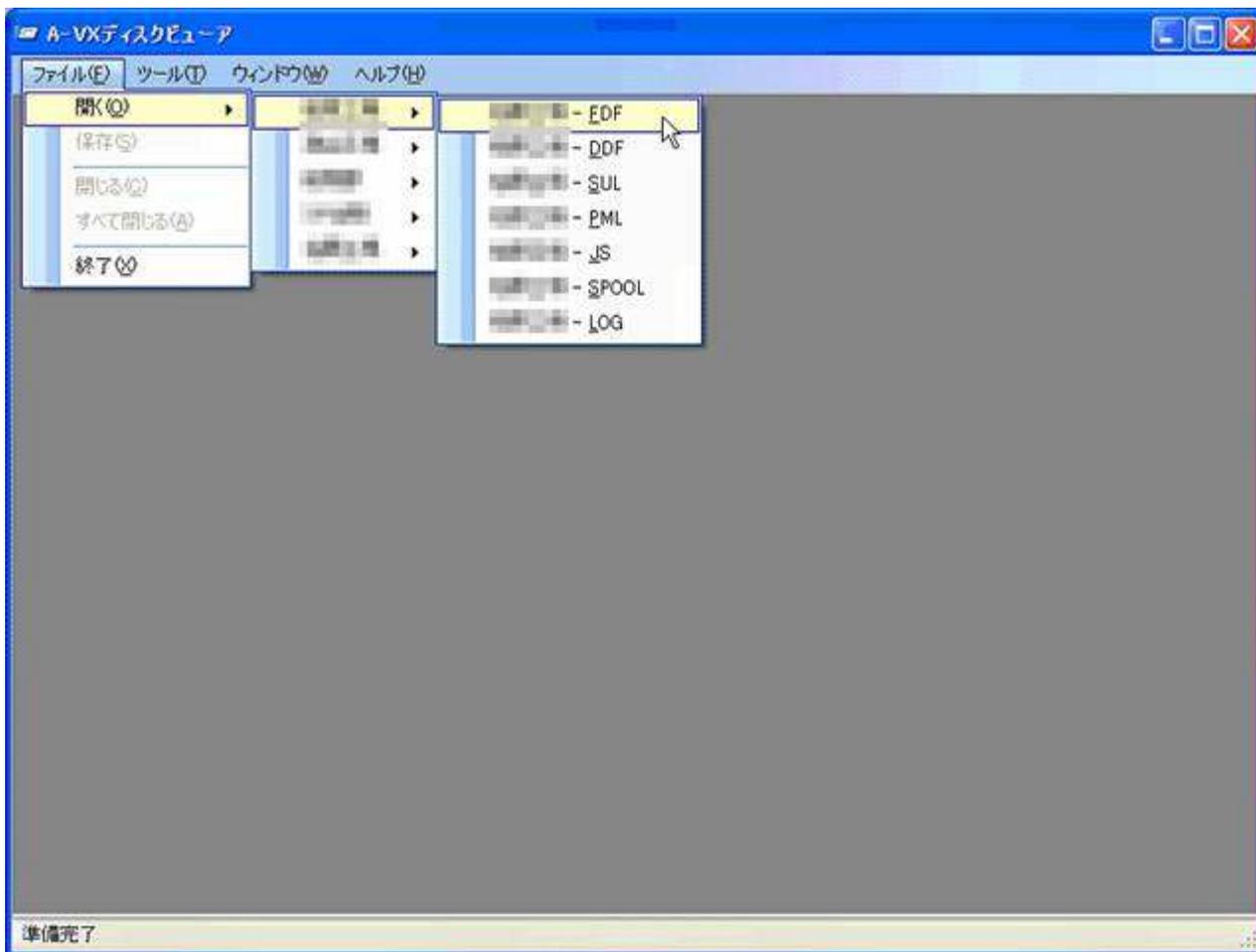
2. 起動画面

起動するとMSDイメージを登録済みの場合下記のウィンドウが表示されます。未登録の場合は、オプションMSD登録ウィンドウが表示されます。(2.9 オプション参照してください。以下のメニューの {登録名} には、2.9 オプションで保存した登録名が表示されます。)

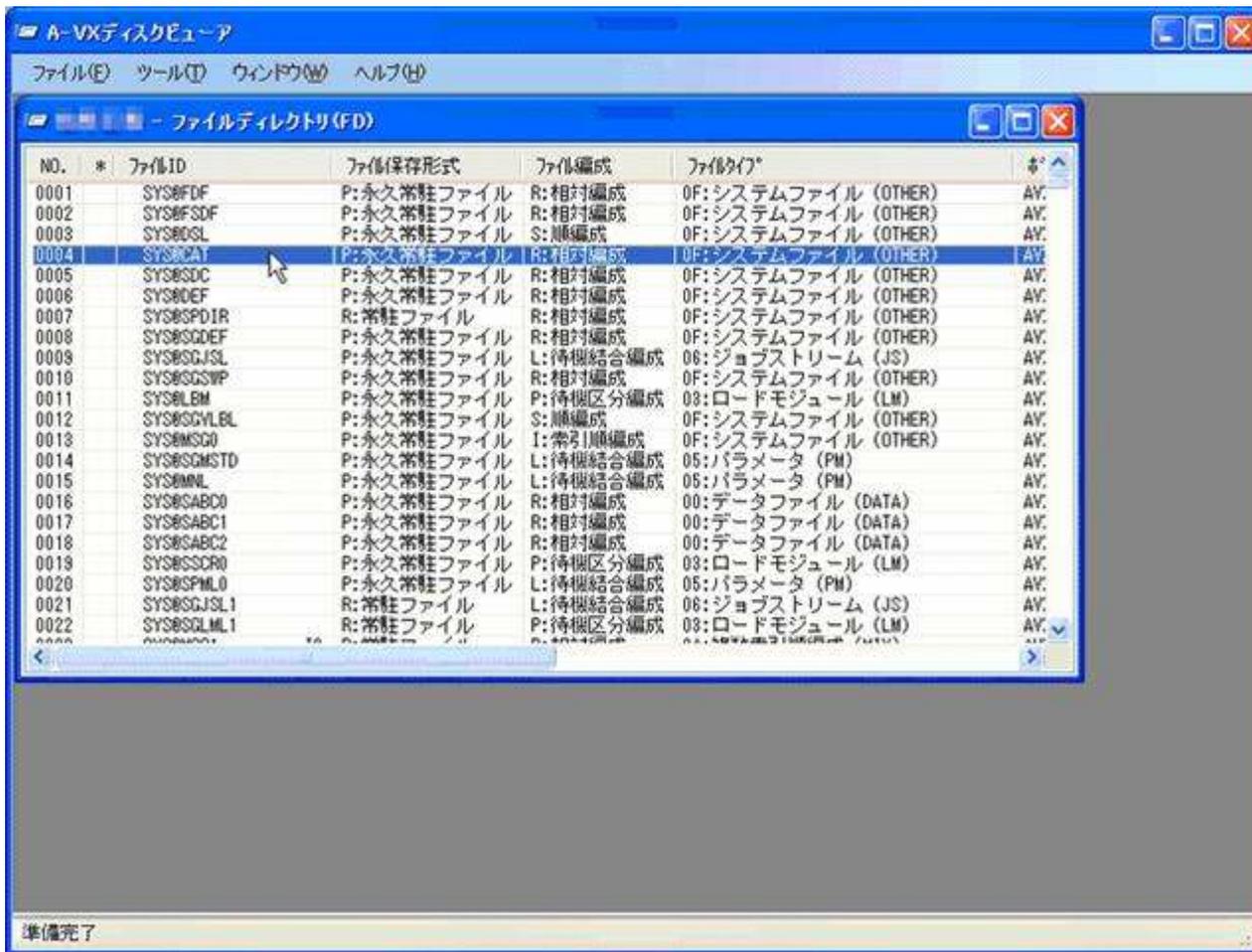


2.1 ファイルディレクトリファイル(FDF)

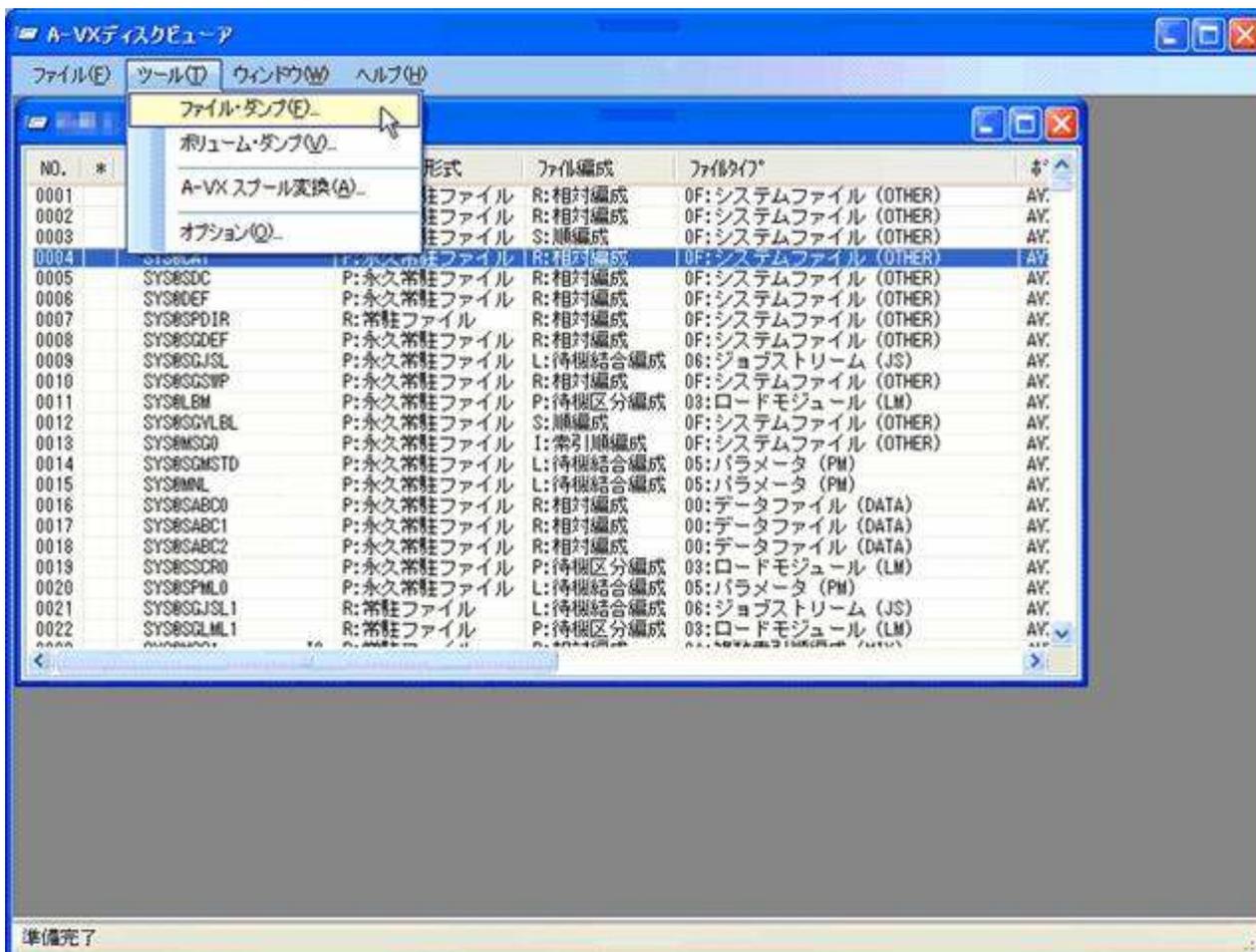
[ファイル(F) | 開く(O) | {登録名} | {登録名}-FDF] をクリックするとファイルディレクトリファイル(FDF)を表示します。



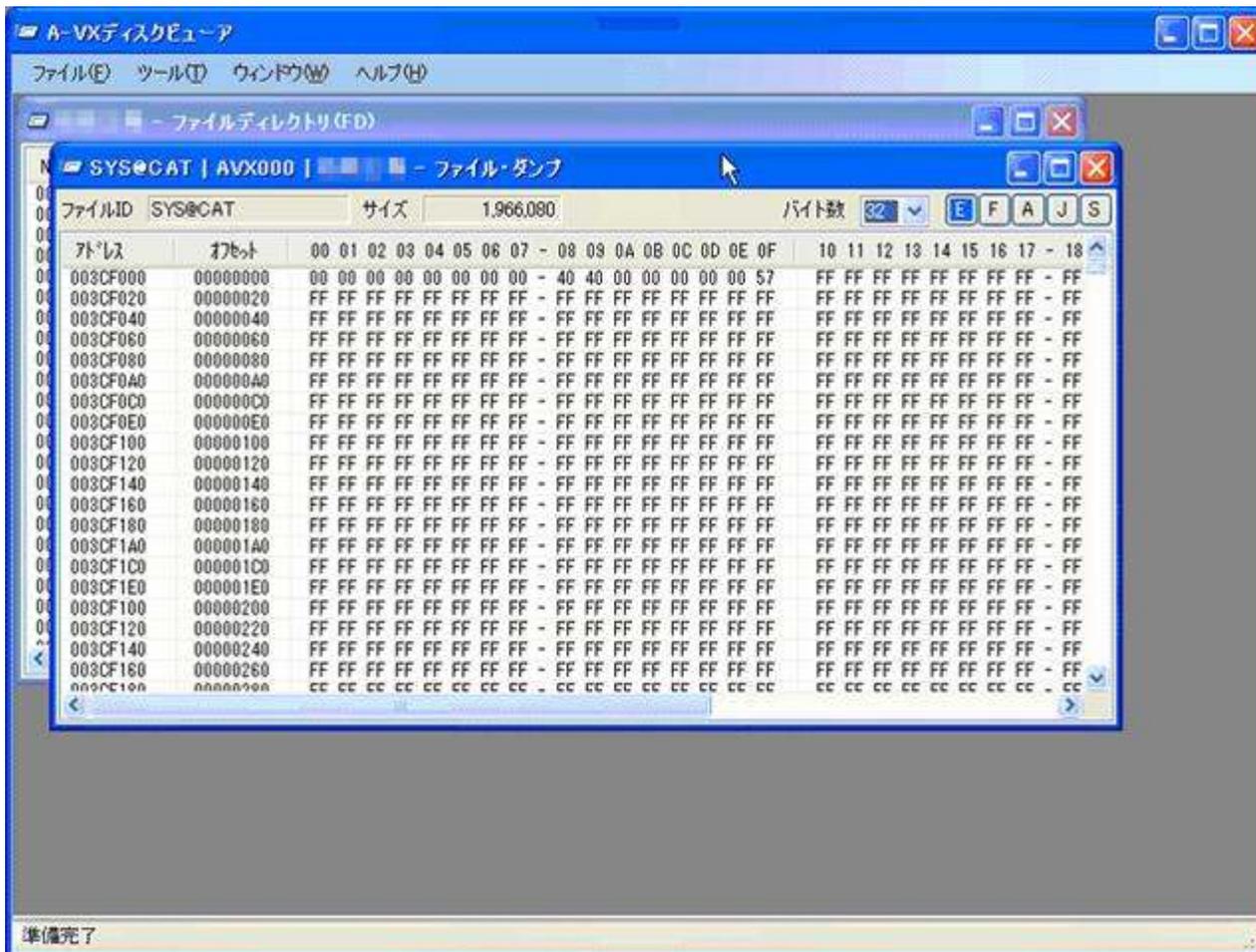
ファイルディレクトリ リスト内の1行をクリックして、



[ツール(T) | ファイル・ダンプ(F)] をクリックすると



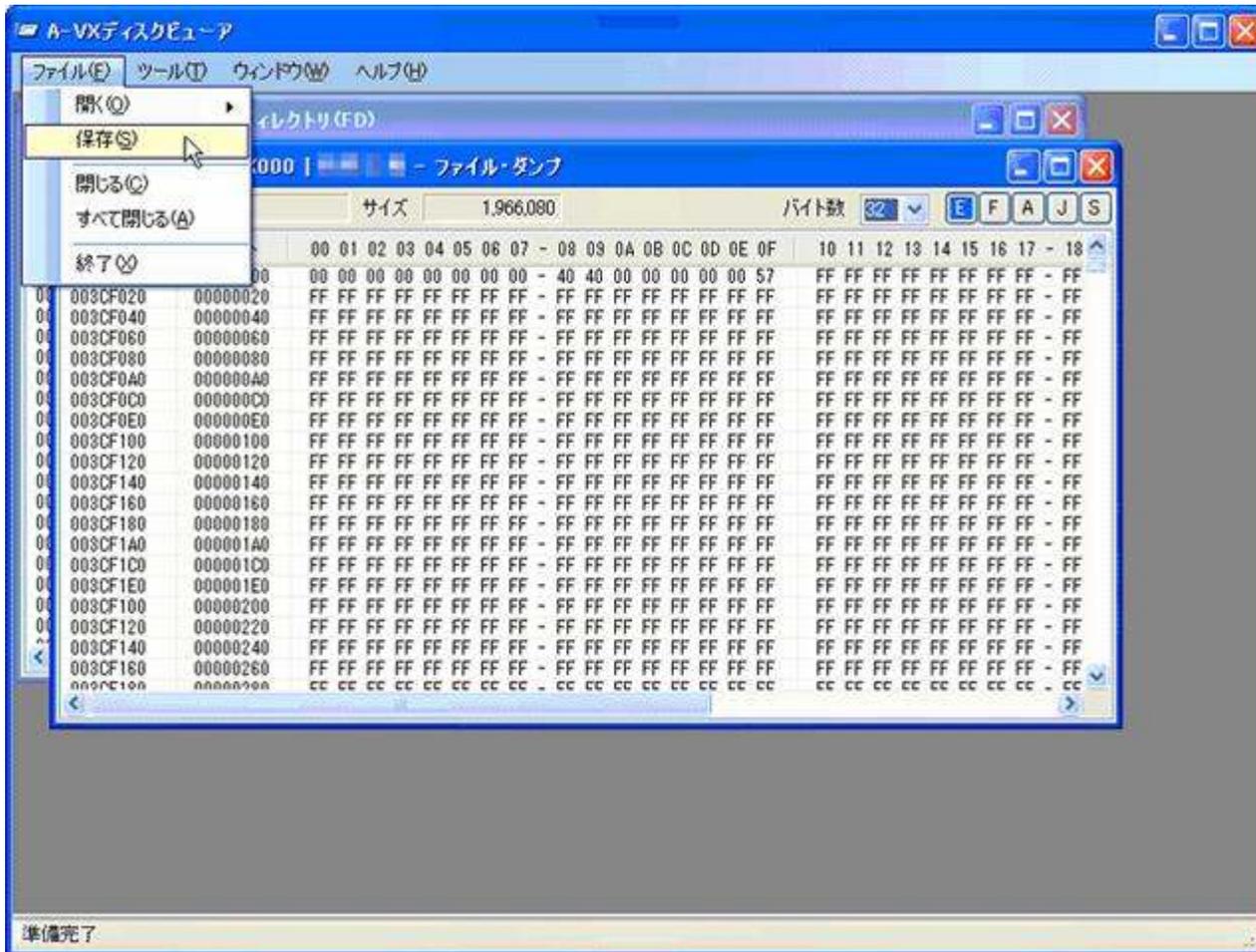
ファイルの内容の16進ダンプリストを表示します。



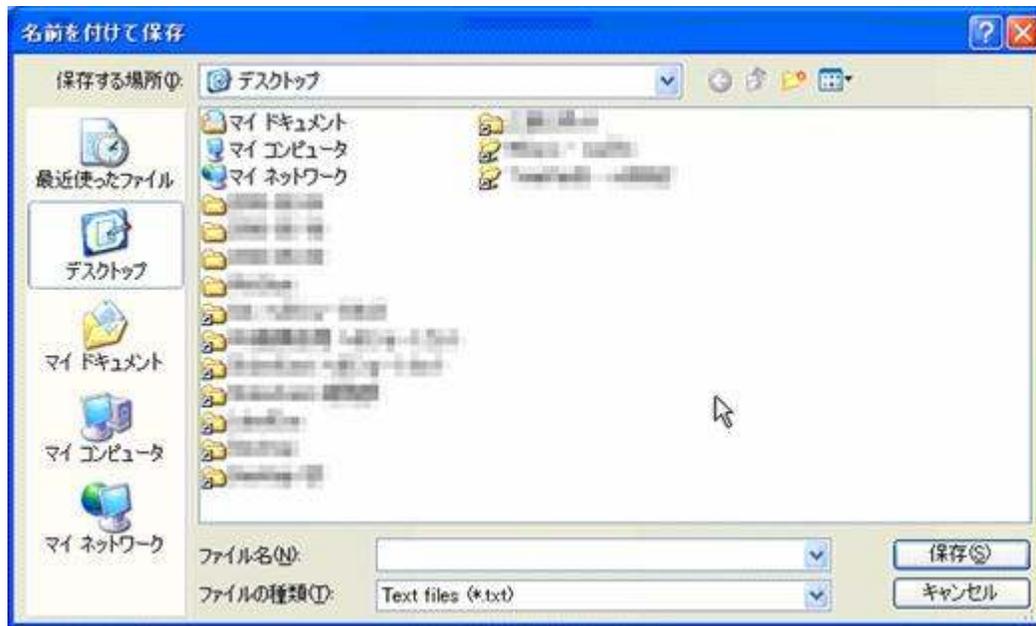
バイト数では、1行のバイト数を変更します。32、64、128、256バイトを選択できます。（ダンプリストは、最初の1億行のみ表示し以降は表示されません。その場合は行のバイト数を調整してください。）

[E][F][A][J][S]ボタンでは、行末の文字コードの表示をEBCDIC 日本語、EBCDIC 英数カナ、ASCII、JIS、Shift-JISコードを表示できます。

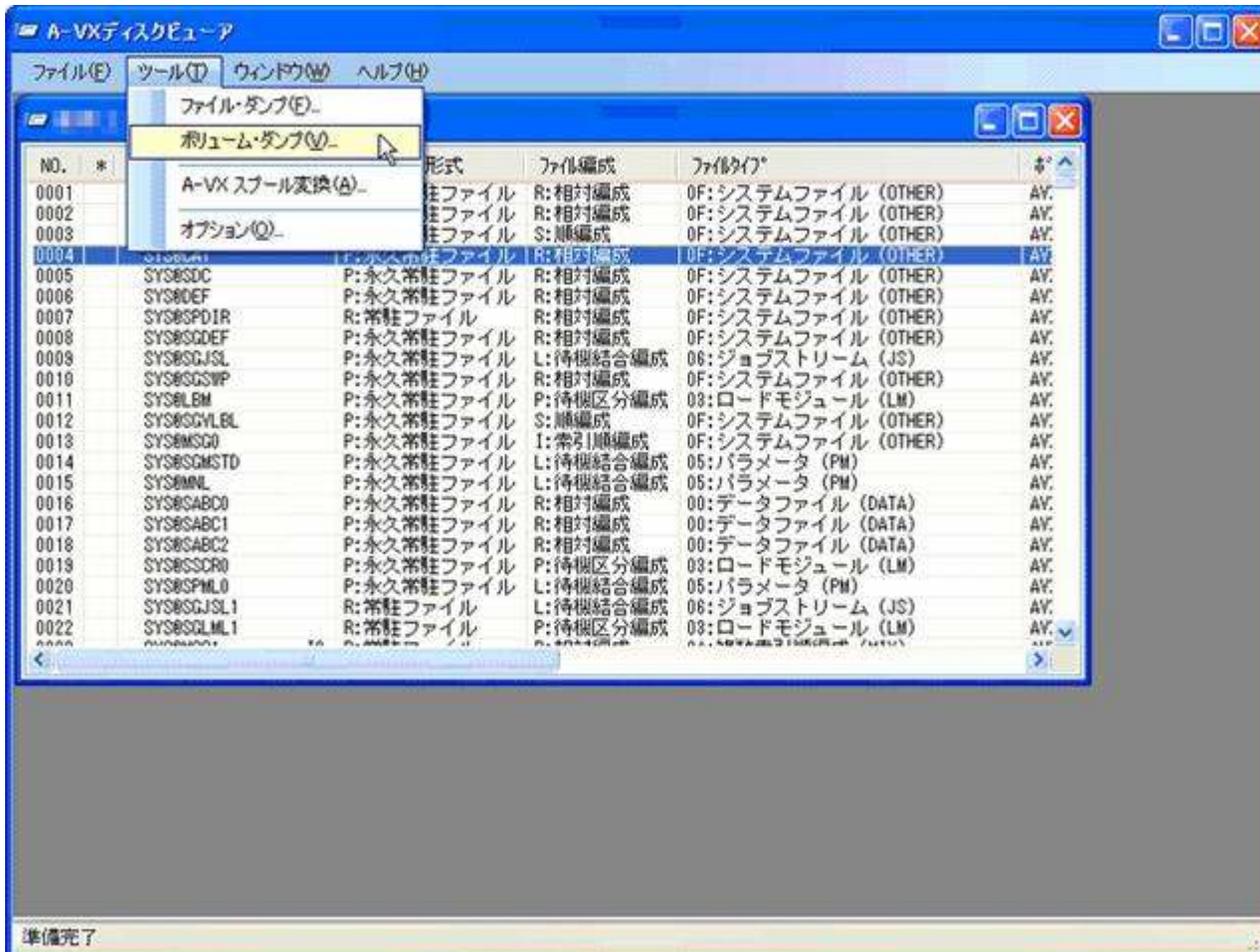
[ファイル(F) | 保存(S)] をクリックすると



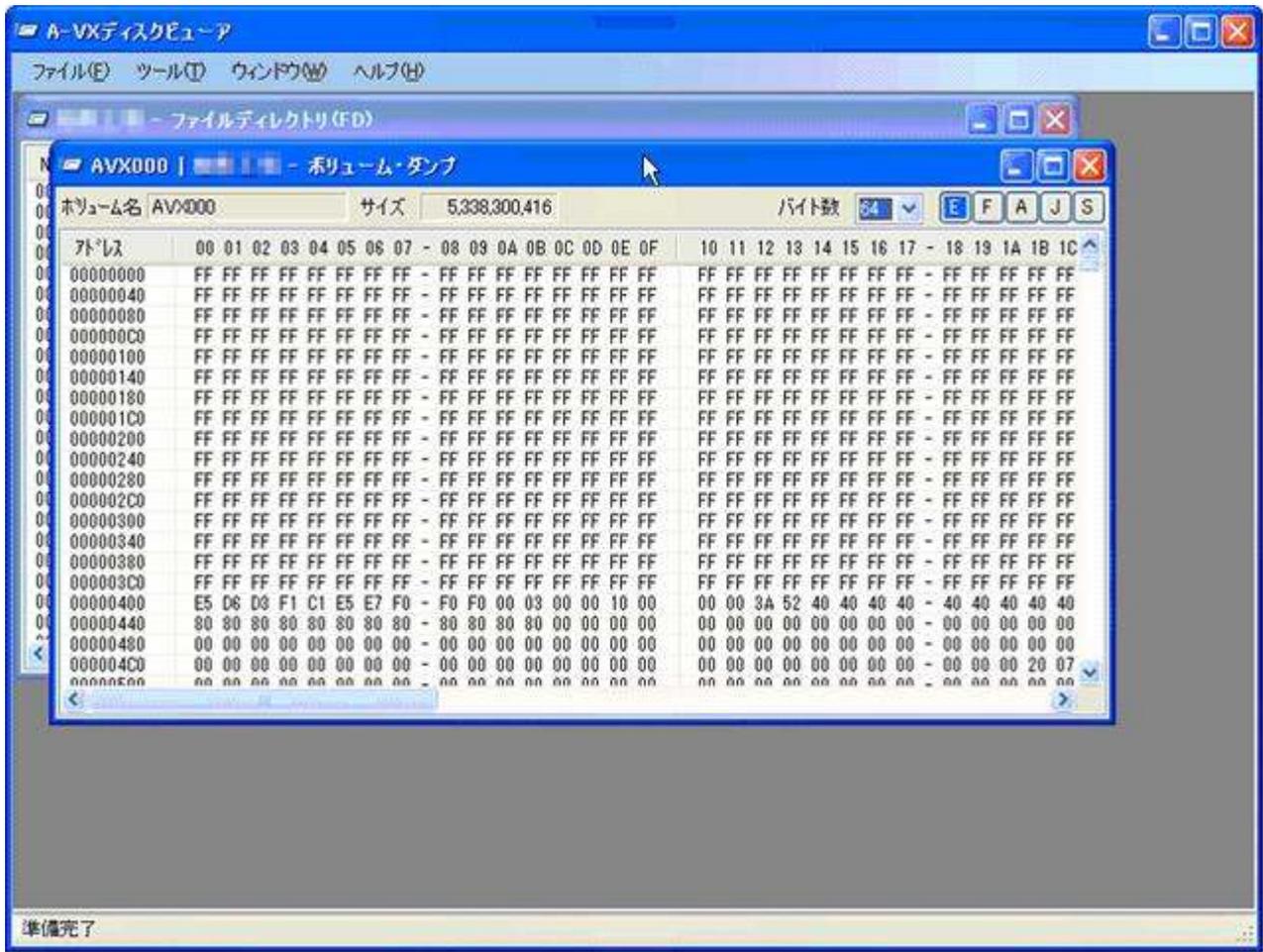
名前を付けて保存 ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を指定して、保存をクリックすると、ダンプリストをテキストファイルに保存できます。ファイルの種類で、Binary File を選択すると、バイナリで保存します。



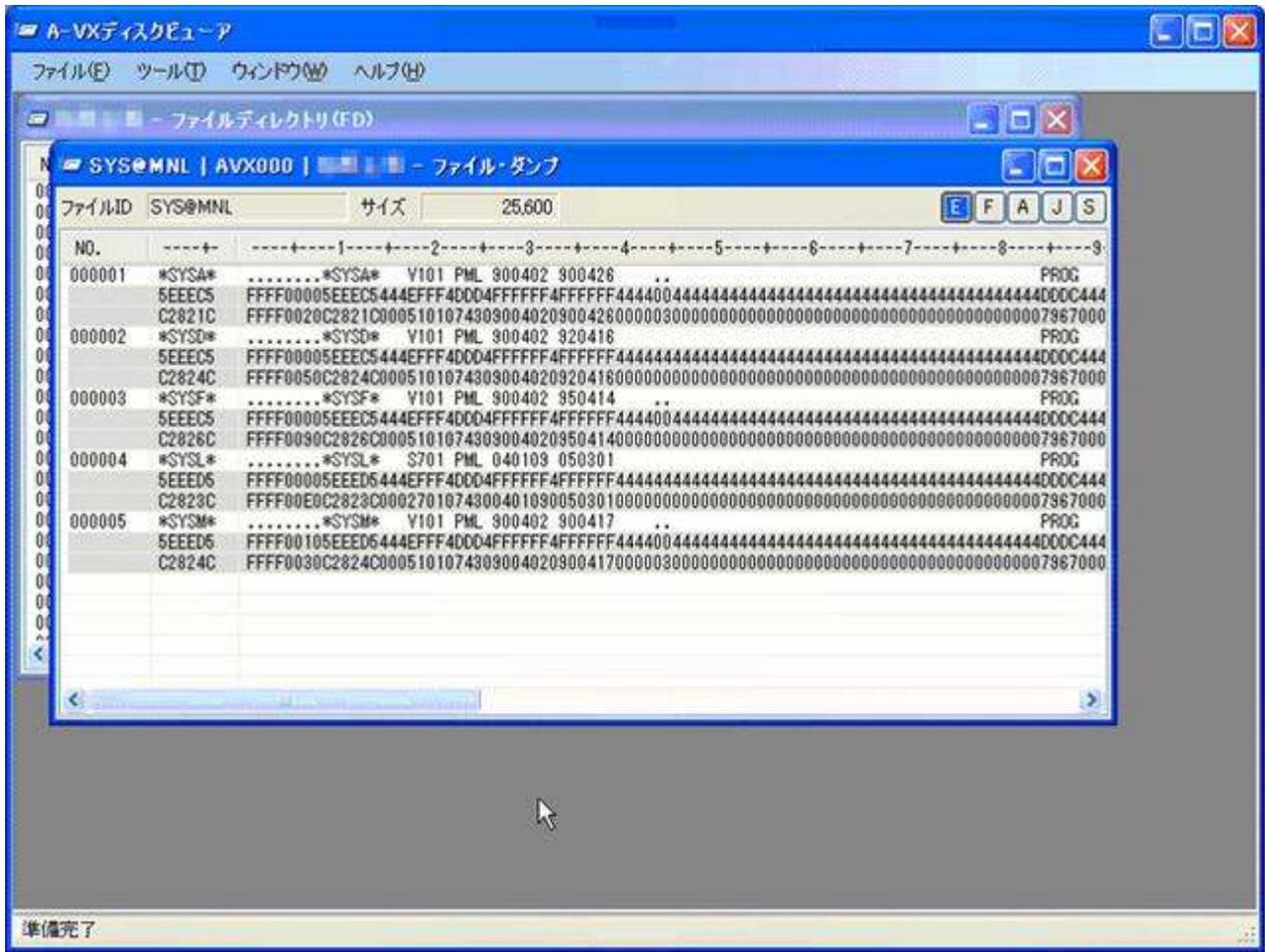
[ツール(T) | ファイル・ボリュームダンプ(V)...] をクリックすると



FDF リストの選択ファイルが所属するボリュームの MSD イメージのダンプリストが表示されます。
 リストに表示可能な行数 1 億行までです。それ以上は表示されません。



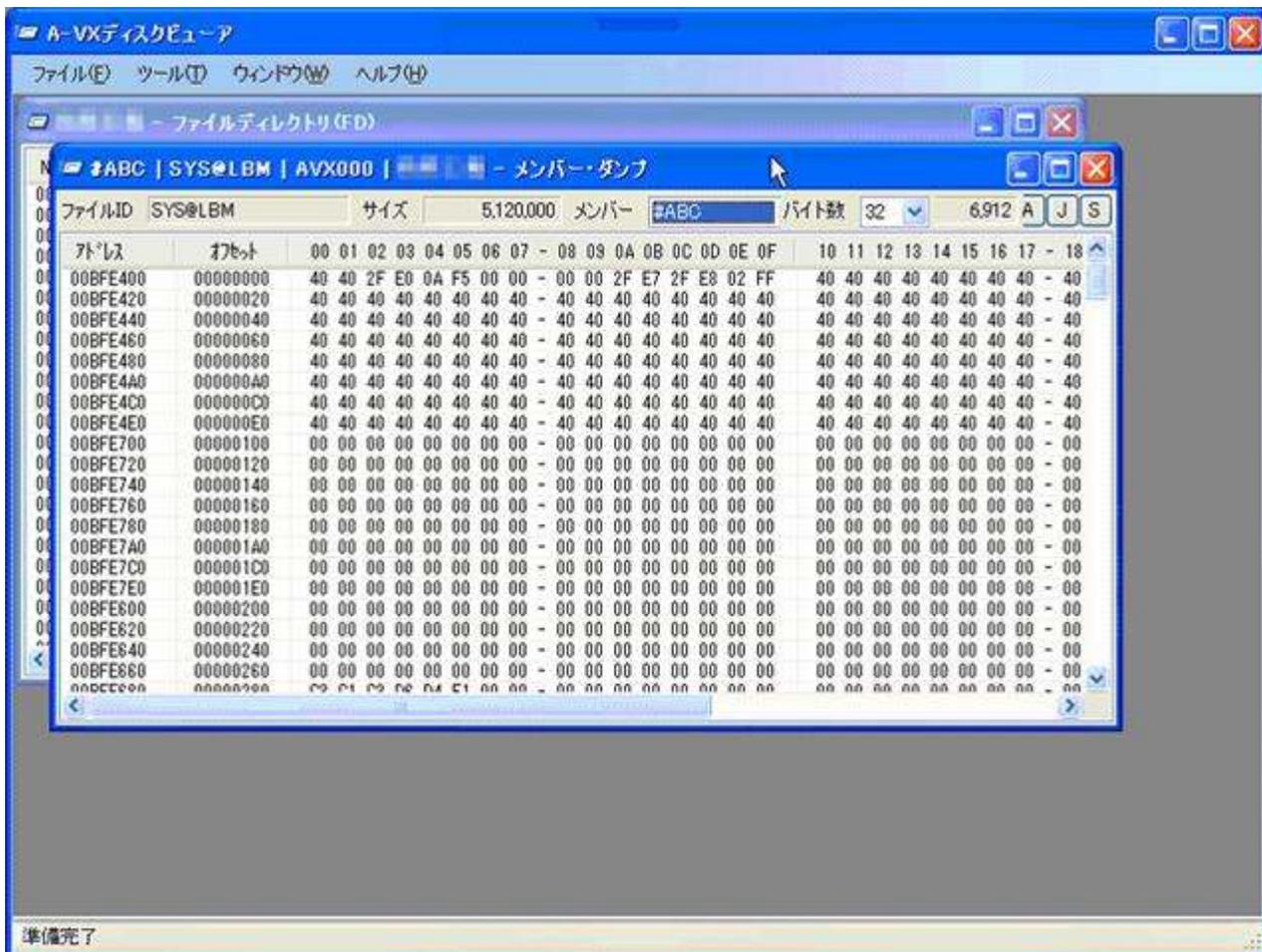
ファイルディレクトリ リスト内の パラメータ (PML) をダブルクリックすると下記のようなダンプリストを表示します。
 背景がグレーの 2 列の行の列はレコード番号、キー、レコードの 16 進ダンプです。



ファイルディレクトリ リスト内の ジョブストリーム(JS) をダブルクリックすると下記のようなダンプリストを表示します。

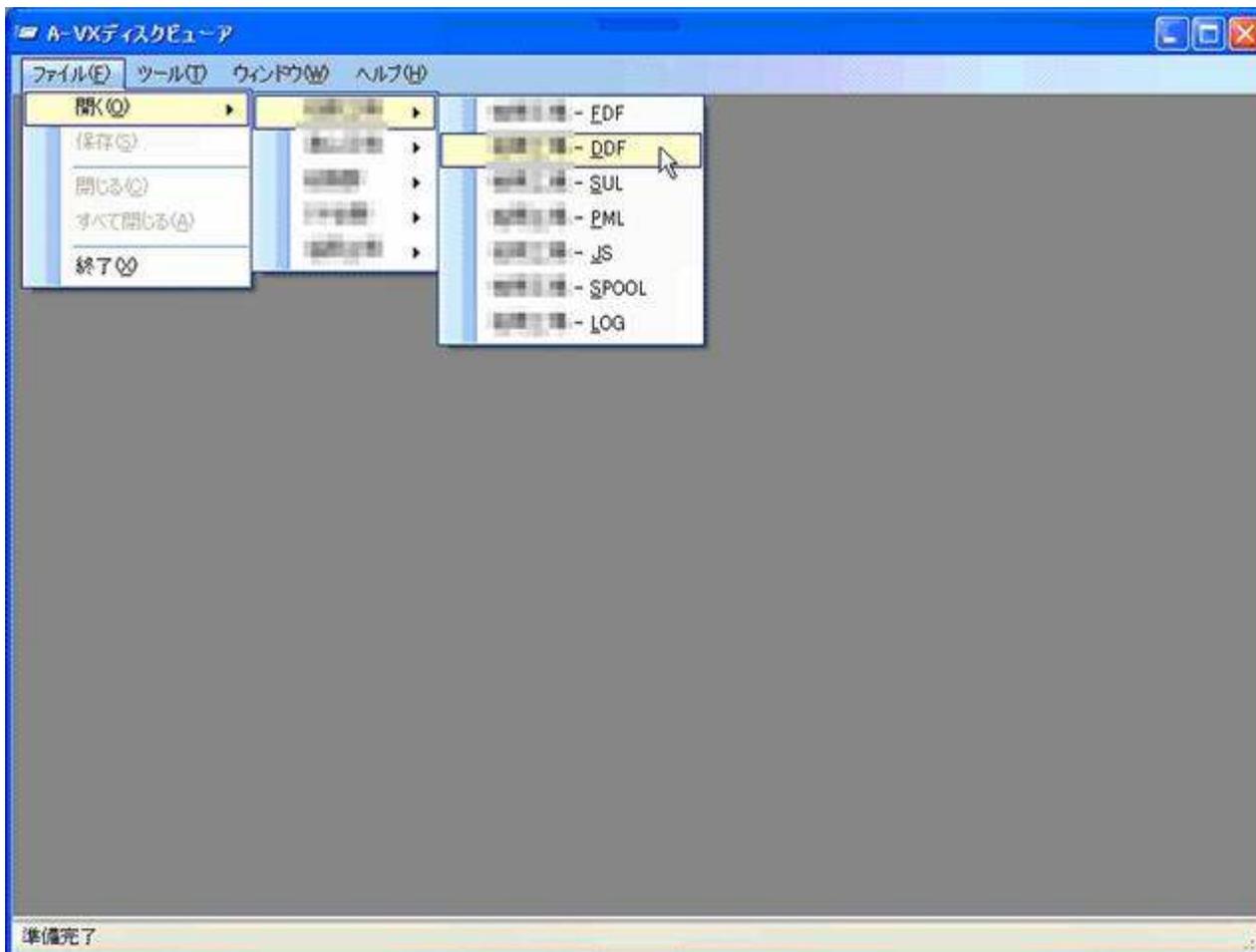


ファイルディレクトリ リスト内の ロードモジュール(LM) をダブルクリックすると下記のようなダンプリストを表示します。
メンバー毎の 16 進ダンプを表示します。



2.2 データディクショナリファイル (DDF)

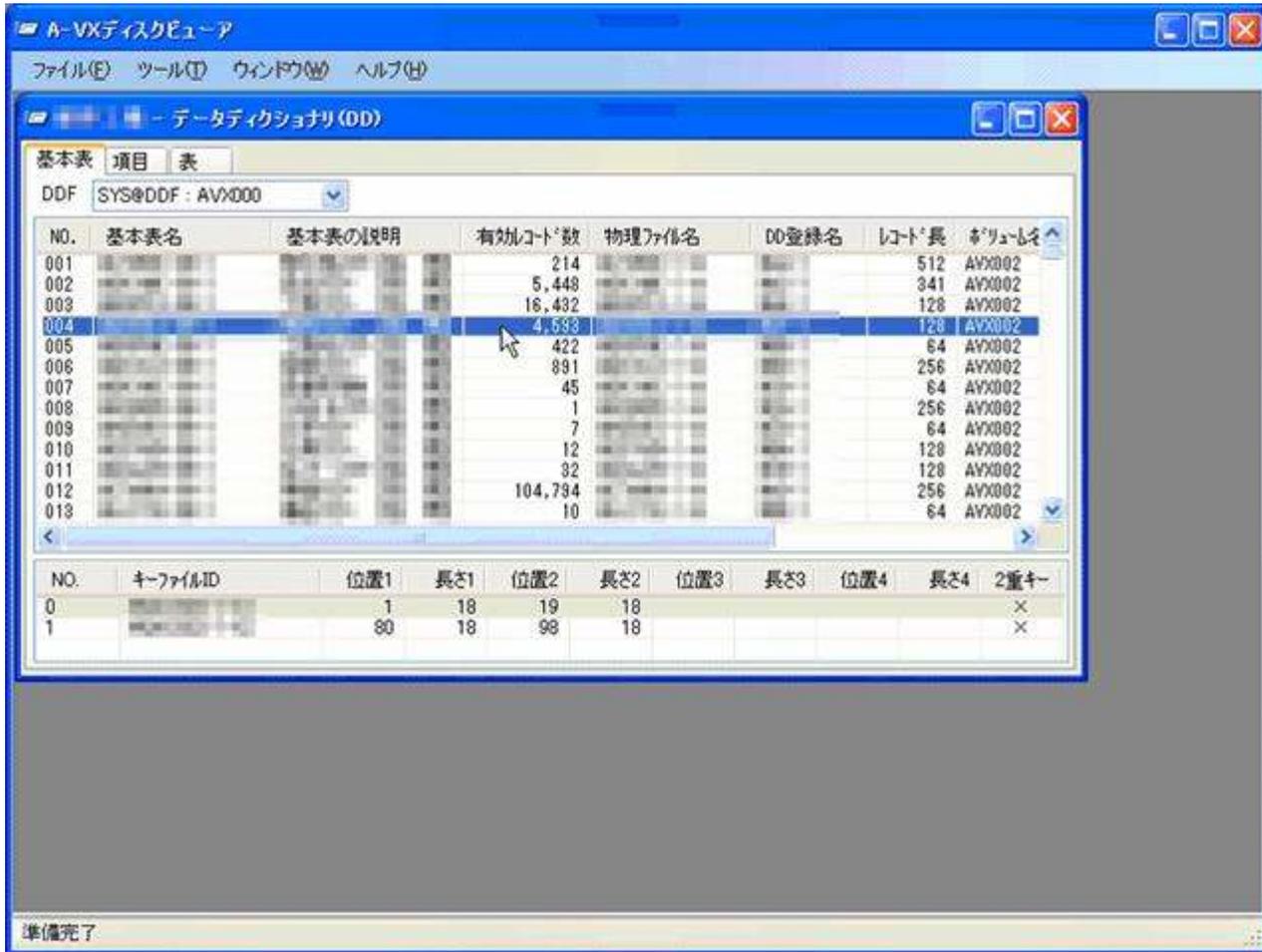
[ファイル(F) | 開く(O) | {登録名} | {登録名}-DDF] をクリックするとデータディクショナリファイル(DDF)を表示します。



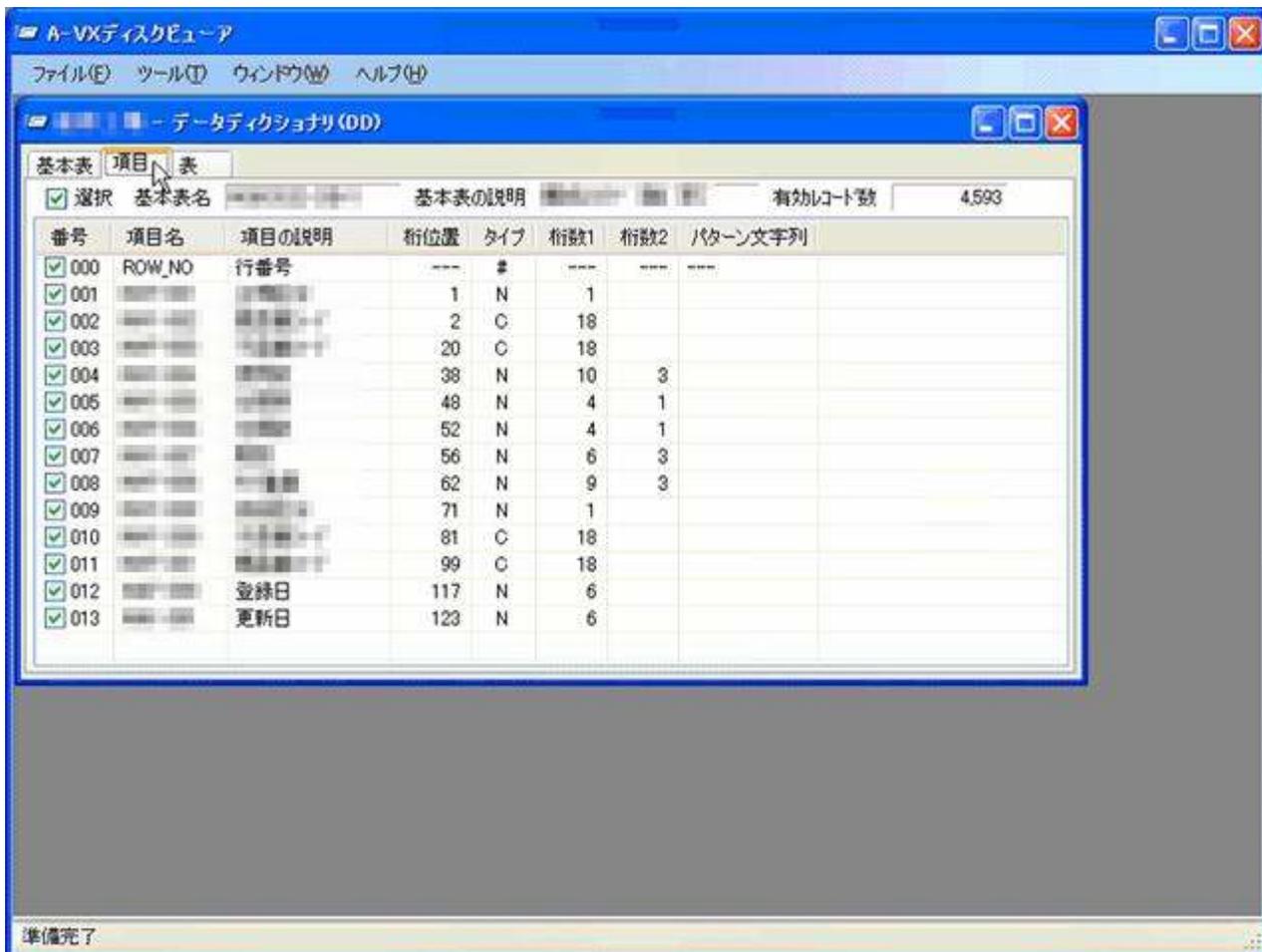
表示したい DDF の 1 つを選択してください。



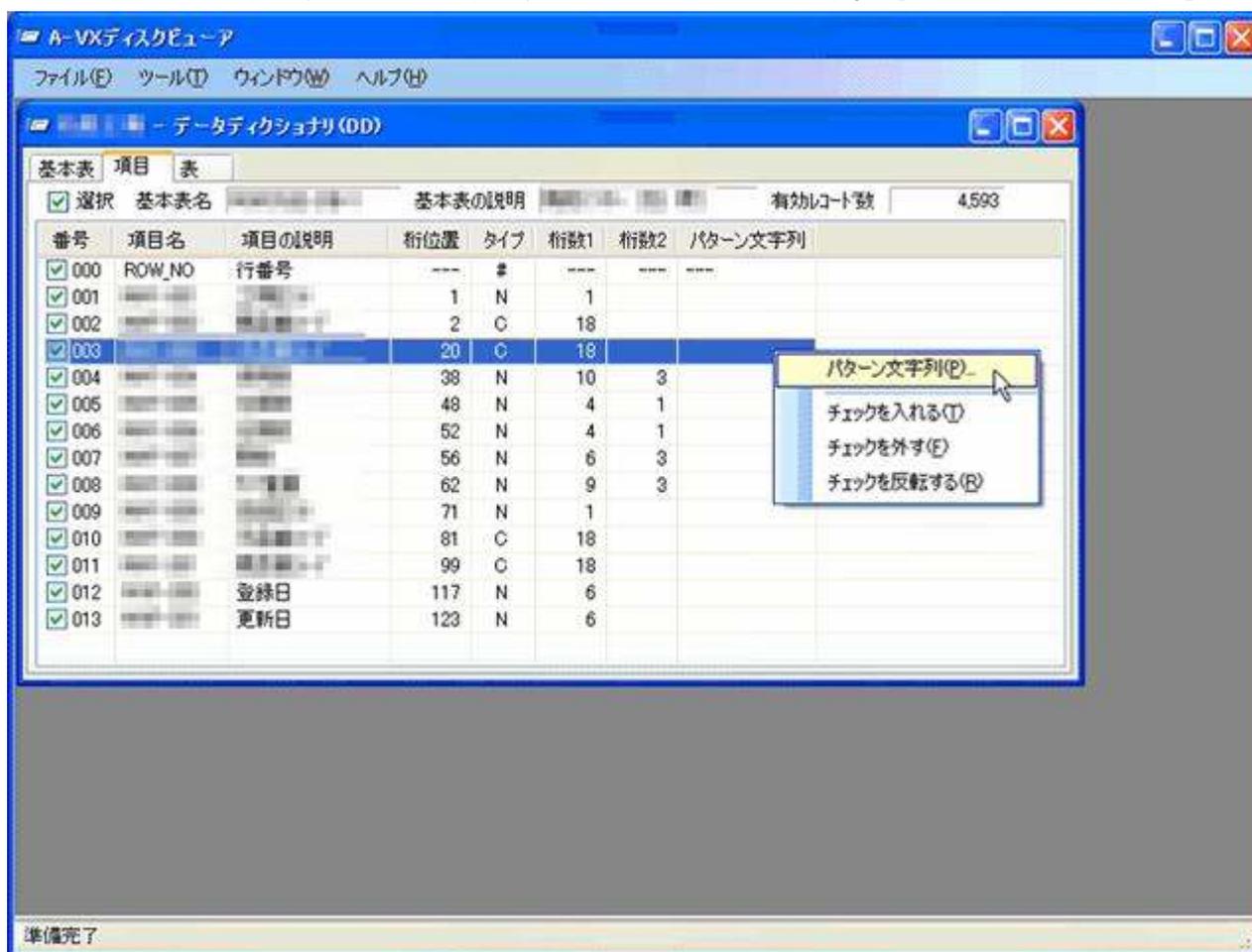
DDFに登録された表のリストが表示されます。参照したい表をクリックしてください。



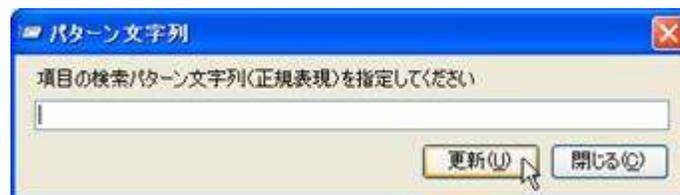
項目タブをクリックすると項目のリストが表示されます。
表に表示したい項目の番号にチェックを入れます。



リストの1行をクリックしてマウス右ボタンを押すと、メニューが表示されます。[パターン文字列(P)...] をクリックすると、



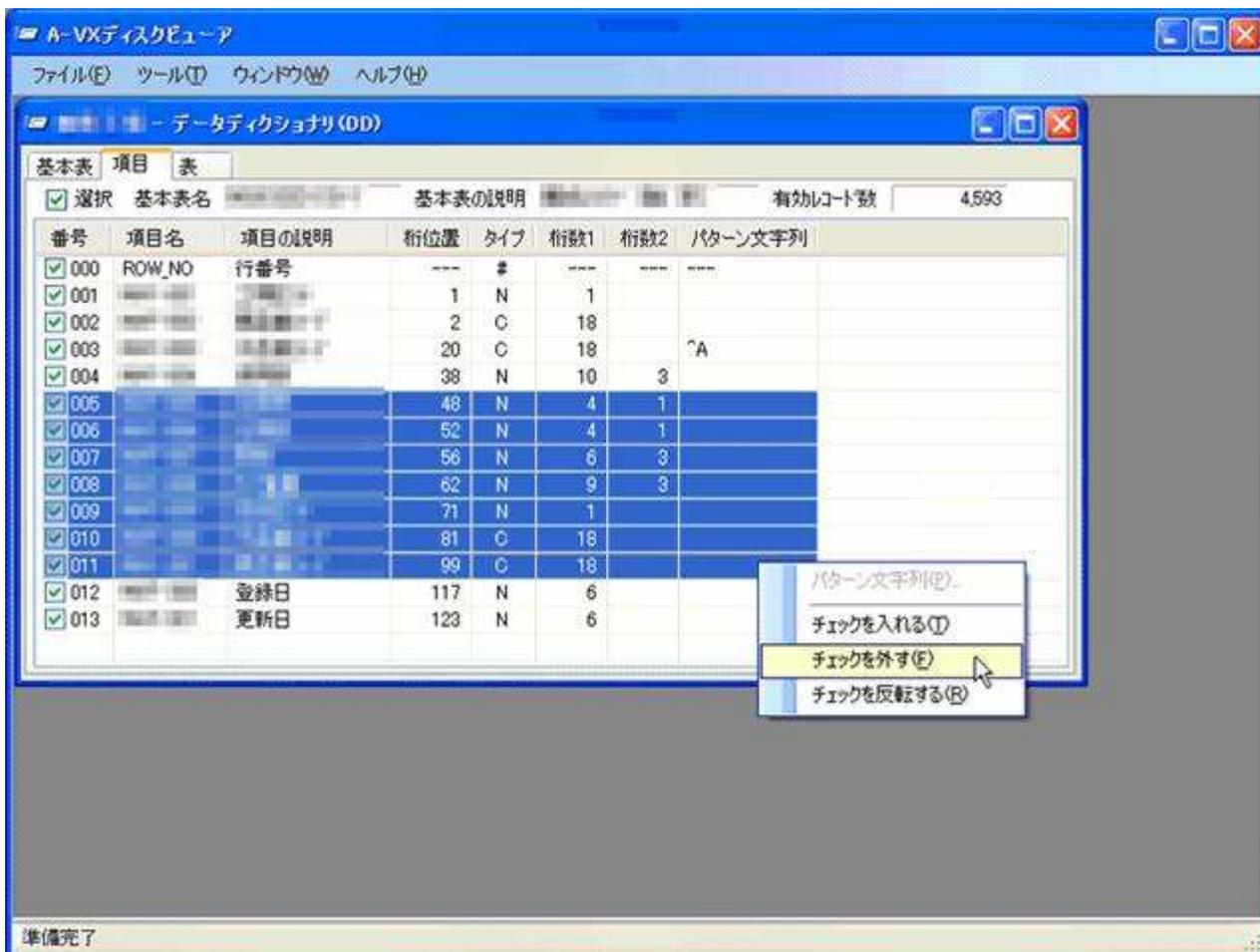
保存したいレコードの指定の項目の文字列パターンを指定できます。(.Net Framework 2. X の正規表現文字列を指定します。)



複数行選択して、



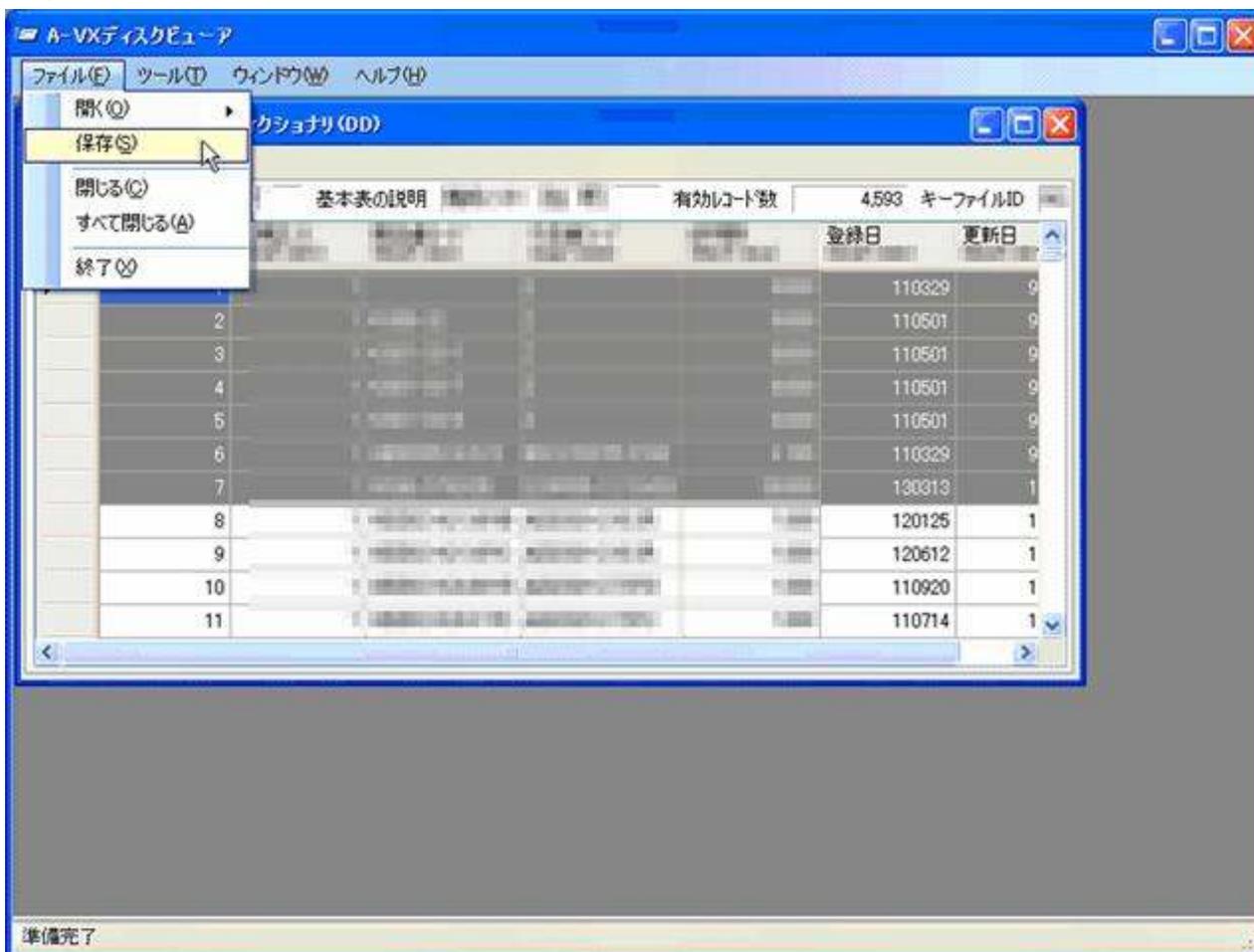
[チェックを入れる(T)] [チェックを外す(F)] [チェックを反転する(R)] を選択すると番号のチェックを操作できます。



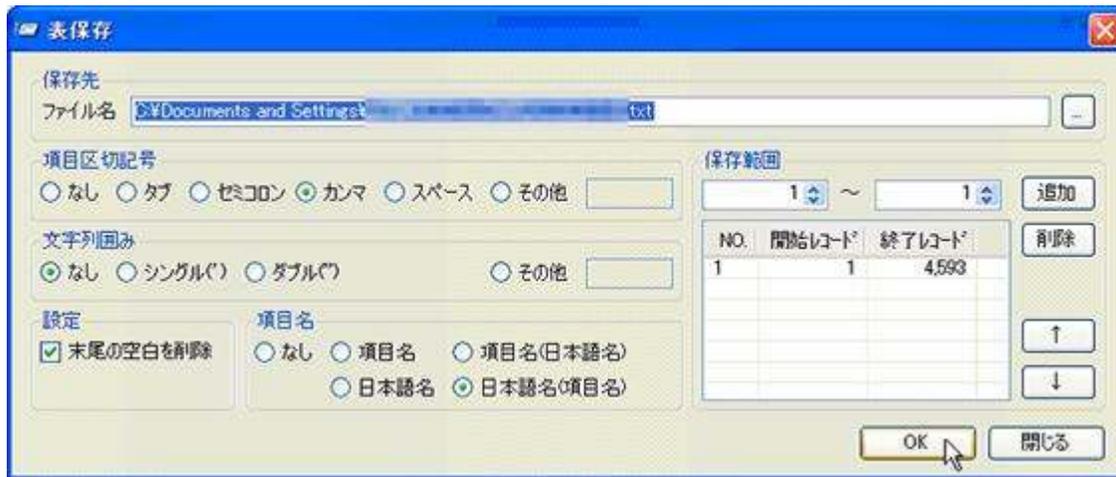
表タブを選択すると、項目タブで指定した項目を表示します。下図の場合指定した文字列パターンに一致するレコードの背景が白で、一致しないレコードの背景がグレーで表示されています。これについては [ツール(T) | オプション(O)] で指定できます。



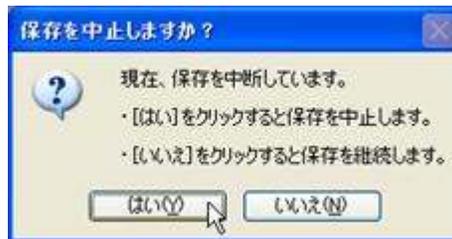
[ファイル(F) | 保存(S)] をクリックすると表を保存できます。



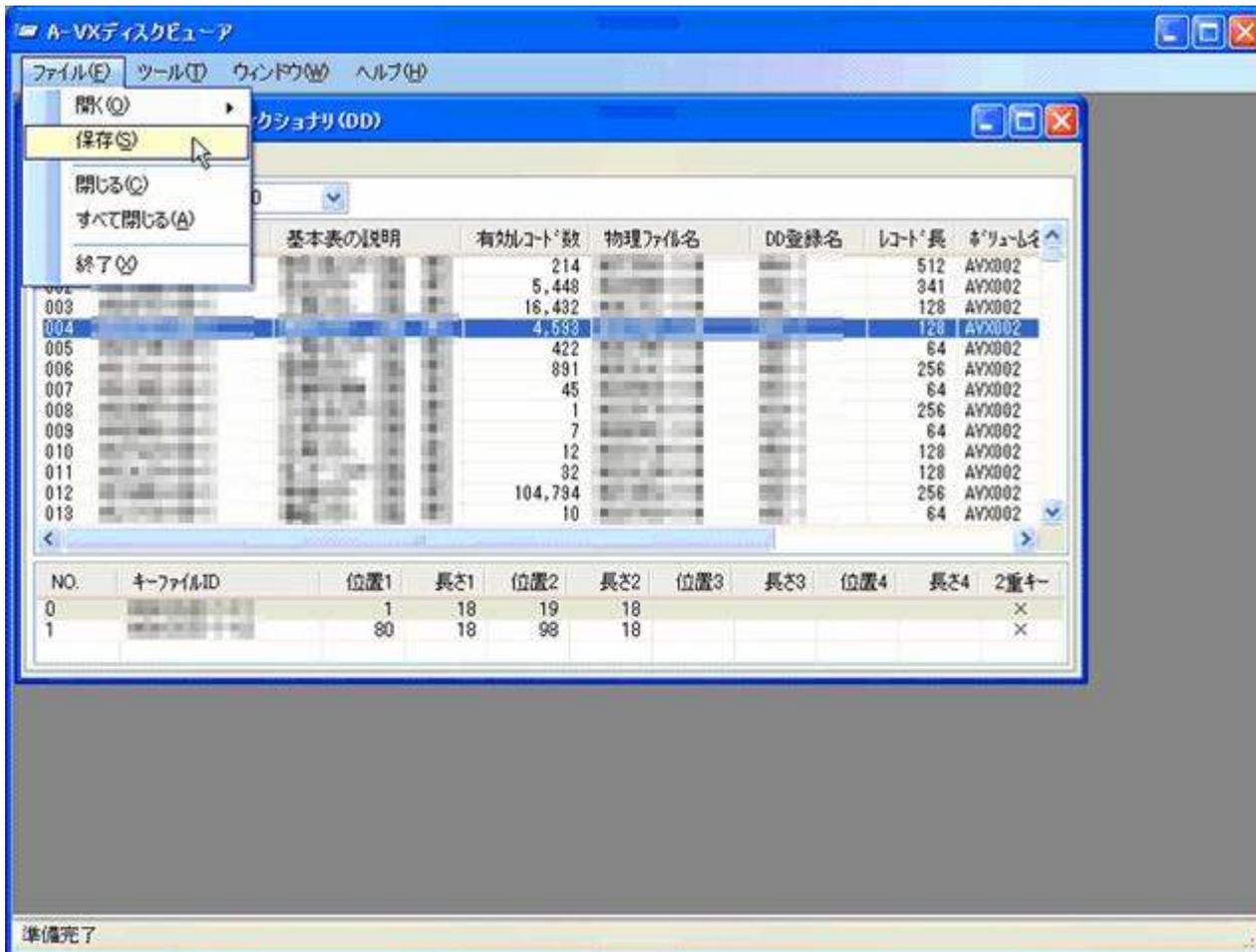
表保存ダイアログで設定して、[OK] ボタンをクリックします。



保存途中で、[Ctrl]+[Alt]を押すと、下記ダイアログを表示します。中止または継続を選択できます。

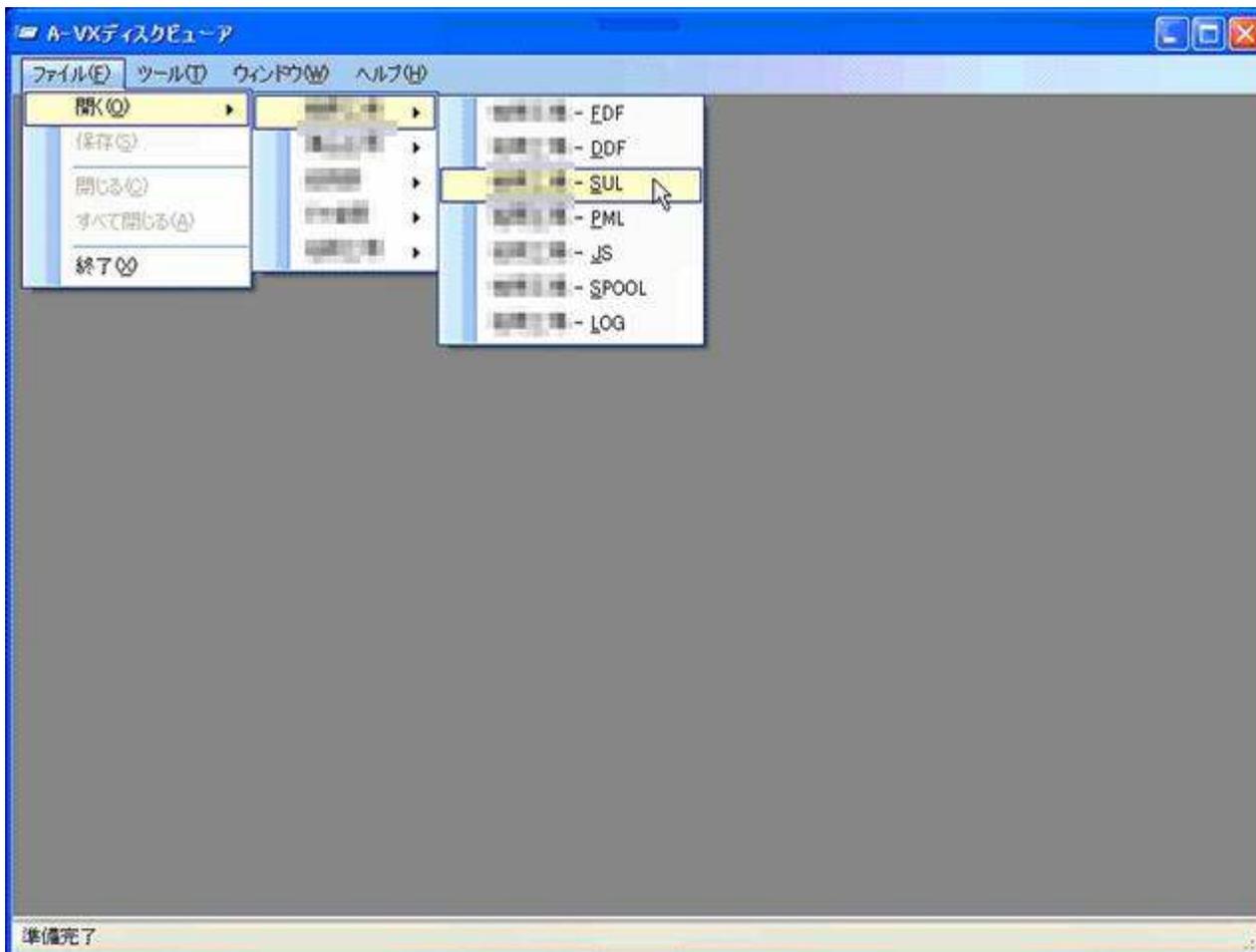


基本表タブを選択し、表の1つを選択した状態で、[ファイル(F) | 保存(S)] をクリックするとリストをテキストファイル形式で保存できます。キースト、項目タブの項目リストについても同様に保存できます。

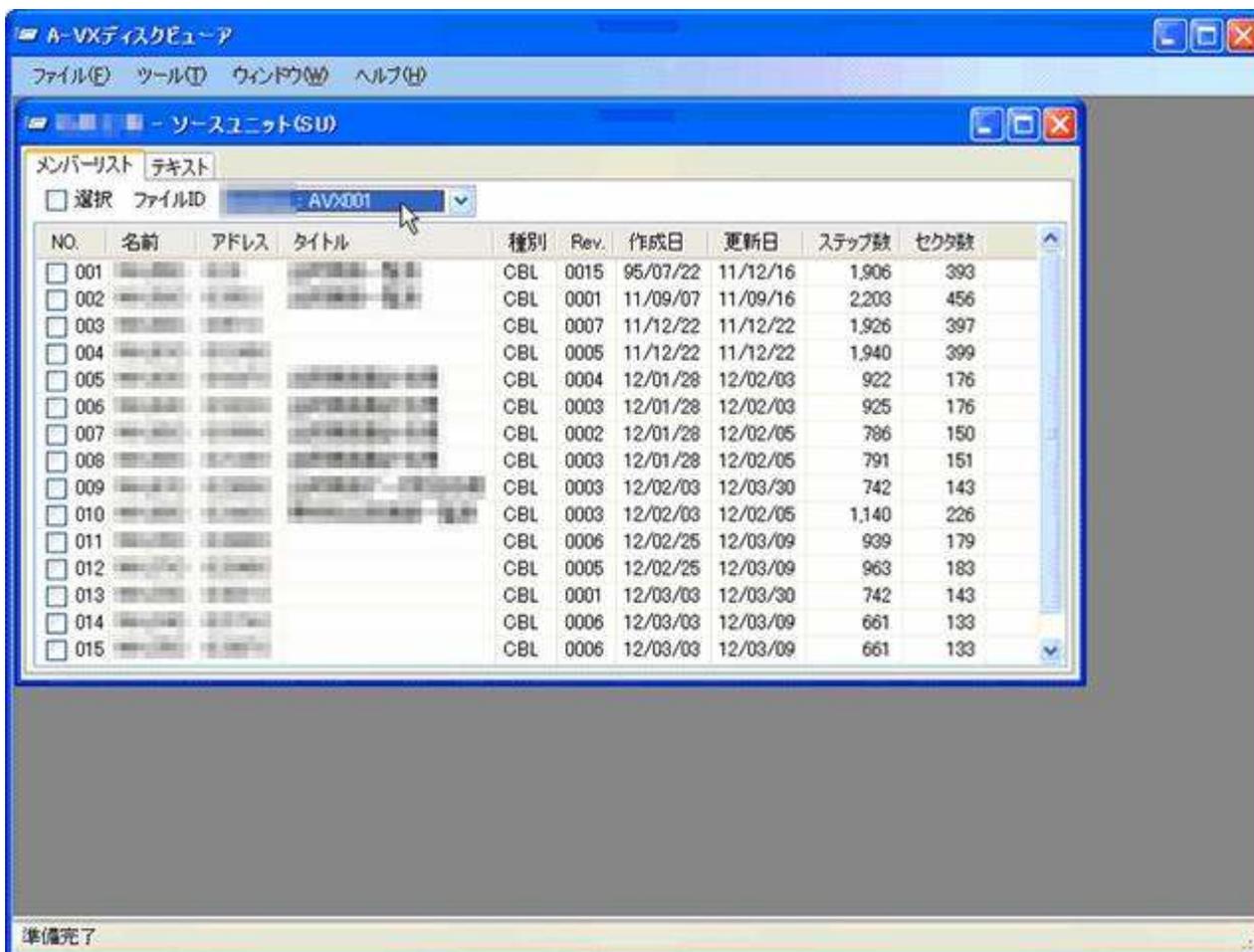


2.3 ソースユニットライブラリファイル (SUL)

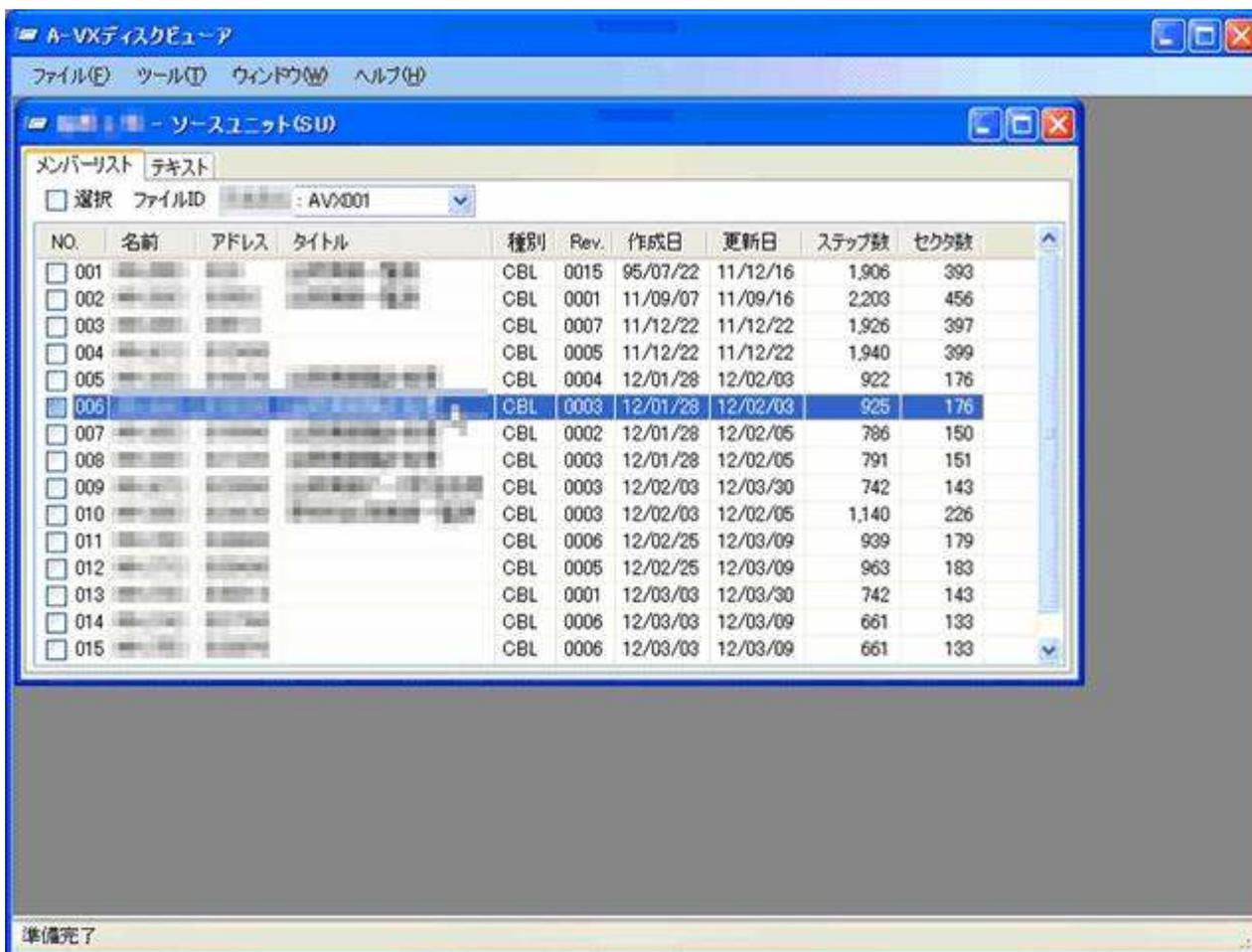
[ファイル(F) | 開く(O) | {登録名} | {登録名}-SUL] をクリックするとソースユニットライブラリファイル (SUL) を表示します。



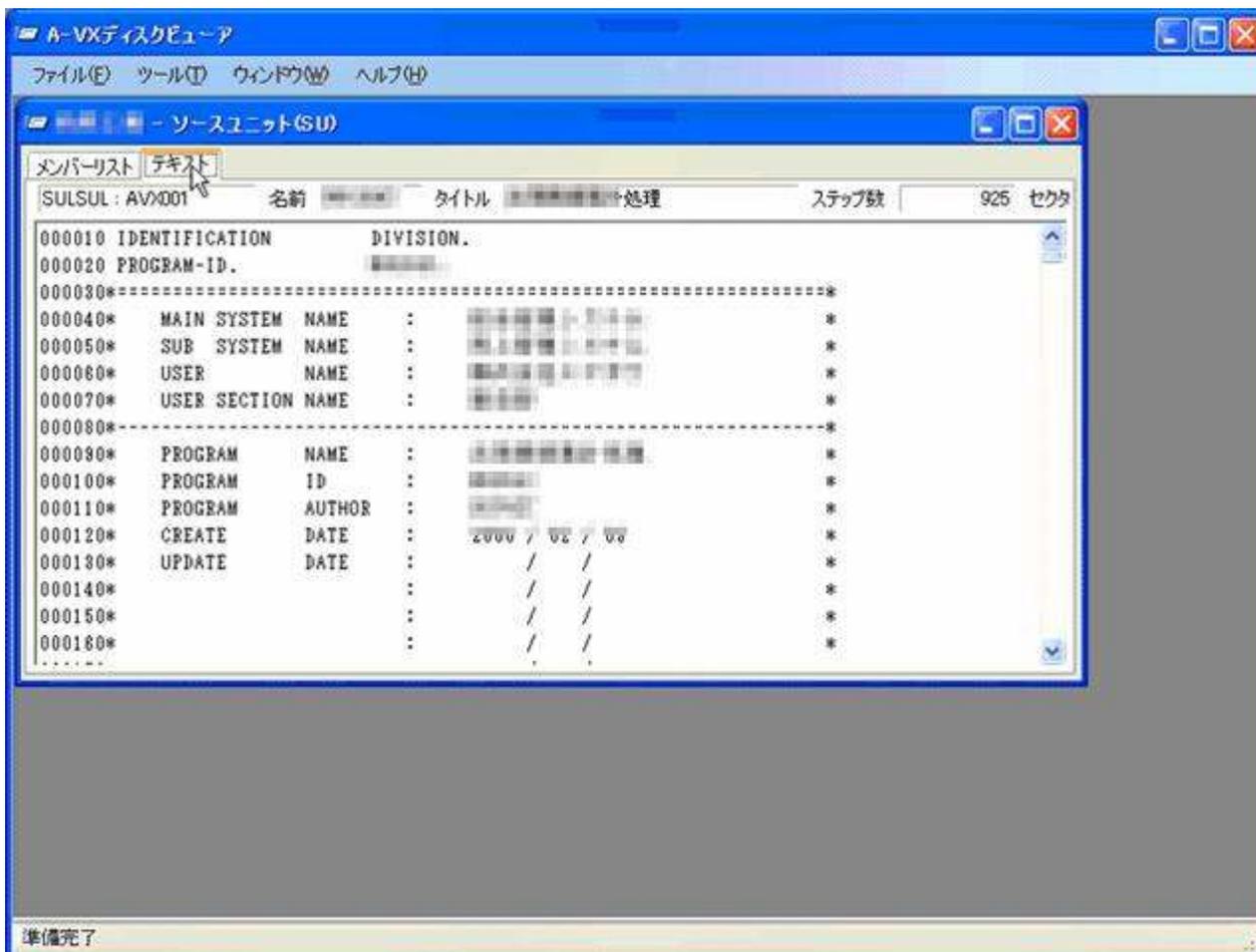
ファイル ID を選択して



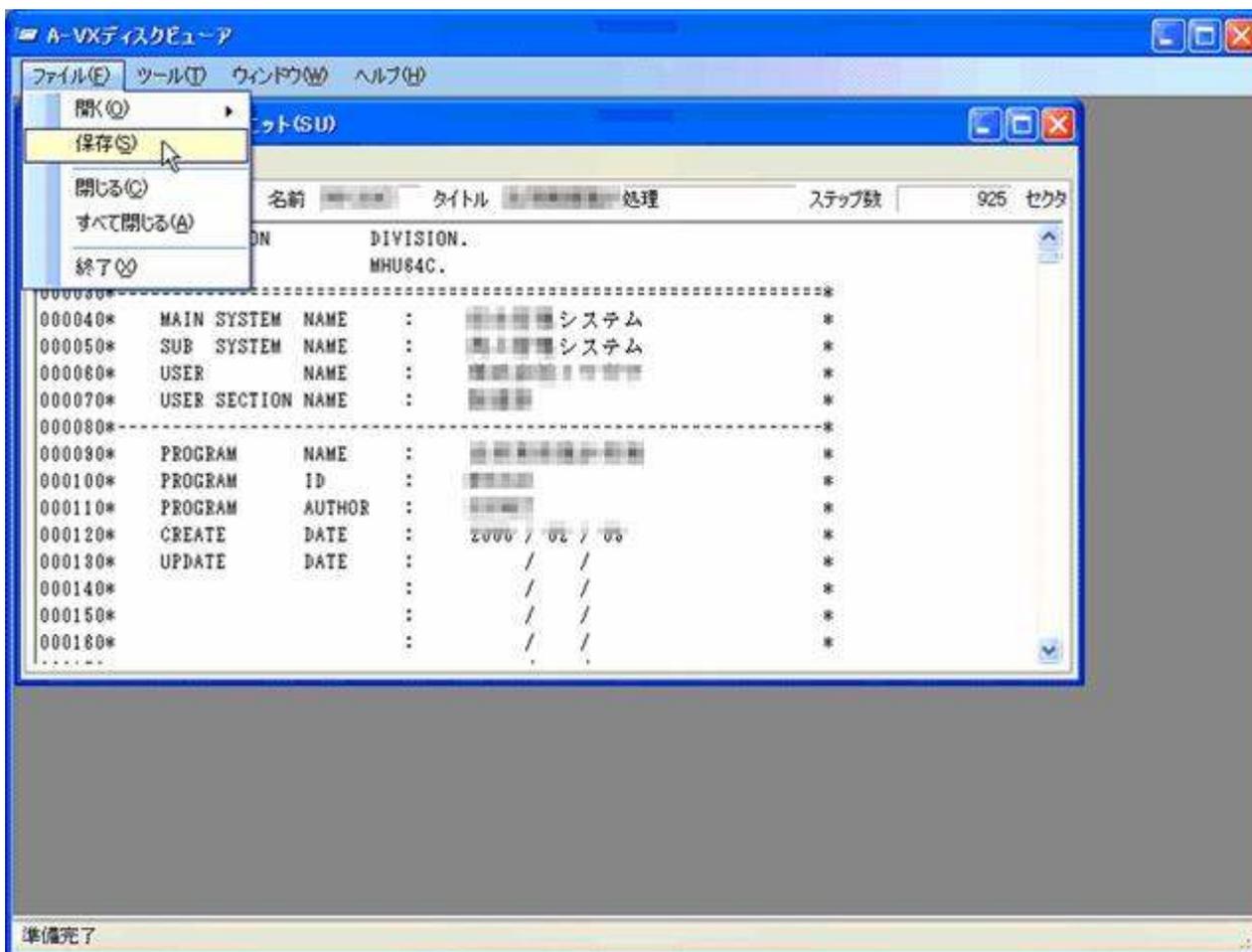
リストの1行を選択後



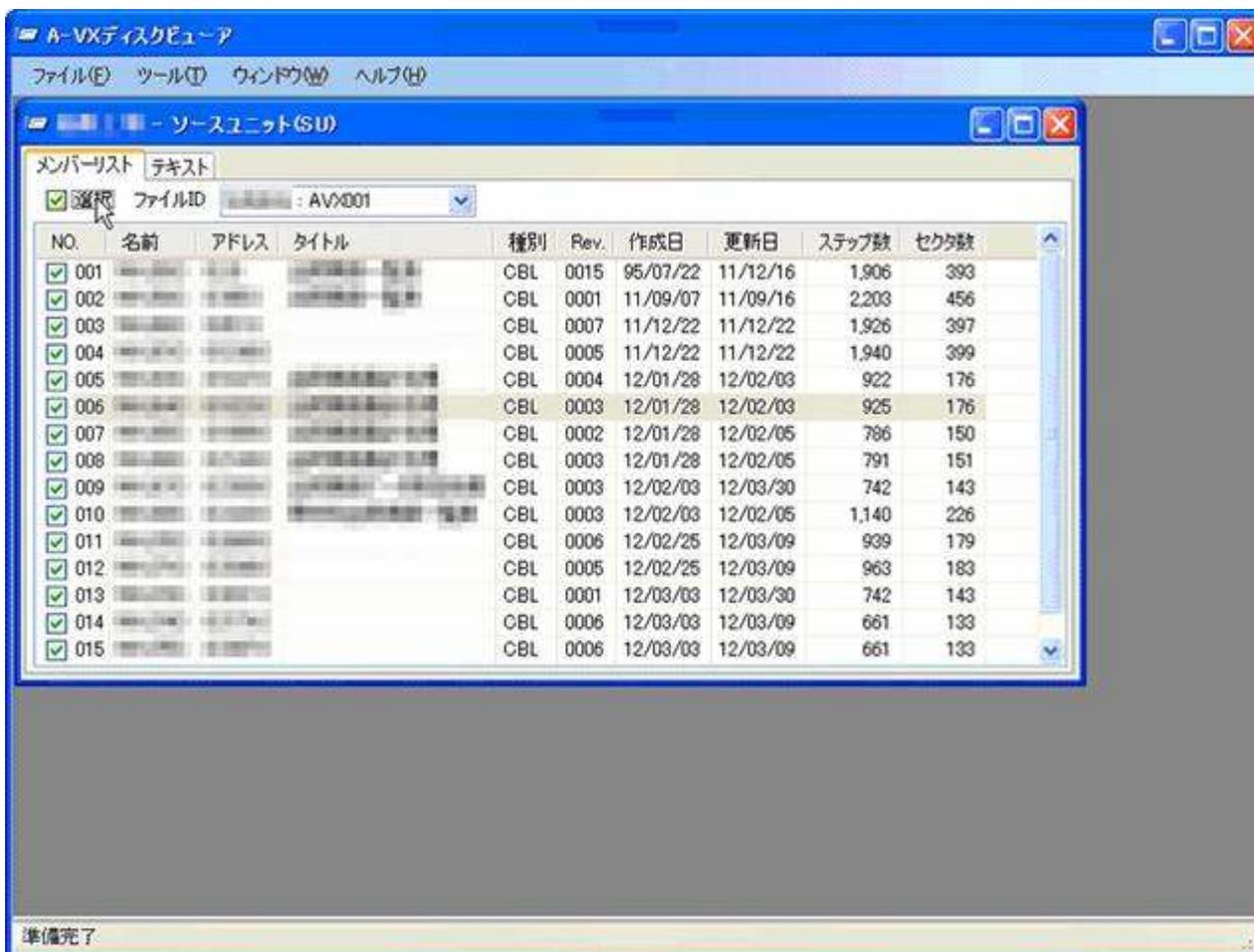
テキストタブをクリックするとテキストの内容を表示します。



[ファイル(F) | 保存(S)] をクリックするとテキストを保存できます。



また、メンバーリストのチェックを入れて [ファイル(F) | 保存(S)] をクリックすると保存先のフォルダを選択してチェック済みのファイルをテキストファイルに保存できます。



2.4 パラメータライブラリファイル (PML)

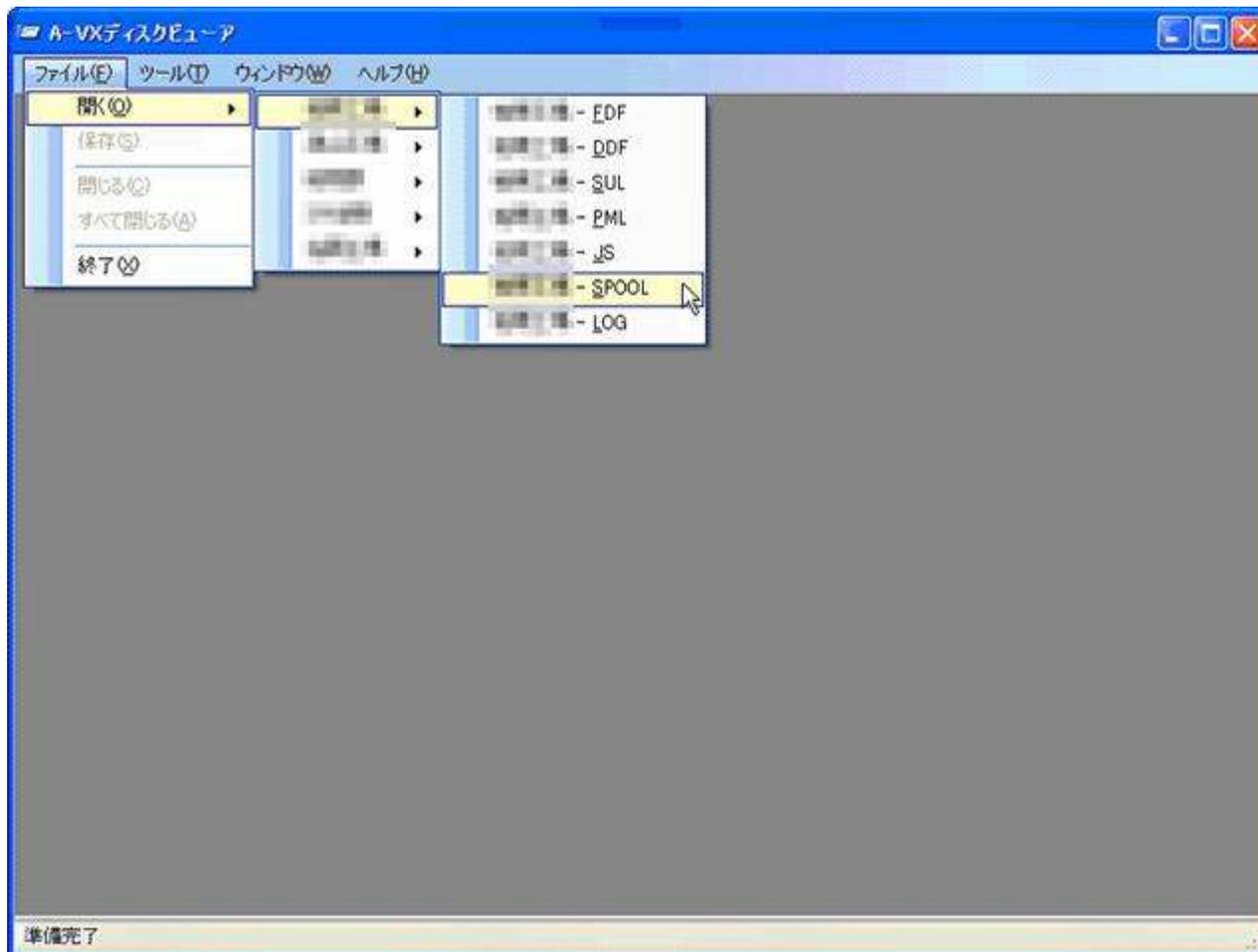
[ファイル(F) | 開く(O) | {登録名} | {登録名}-PML] をクリックするとパラメータライブラリファイル (PML) を表示します。操作方法は、2.3 ソースユニットライブラリファイル(SUL) と同様です。

2.5 ジョブストリームファイル (JS)

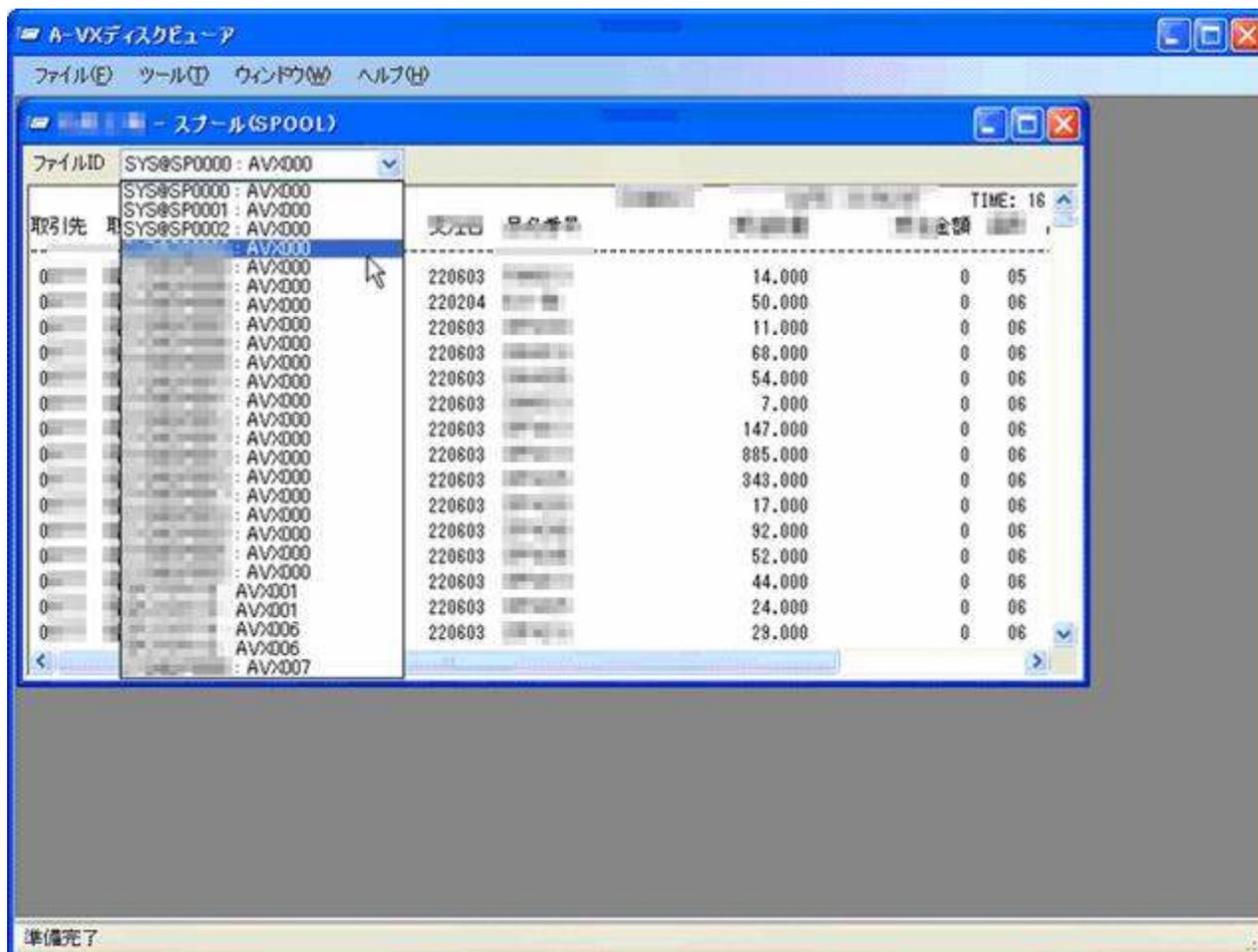
[ファイル(F) | 開く(O) | {登録名} | {登録名}-JS] をクリックするとジョブストリームファイル (JS) を表示します。
操作方法は、2.3 ソースユニットライブラリファイル(SUL) と同様です。

2.6 スプールファイル (SPOOL)

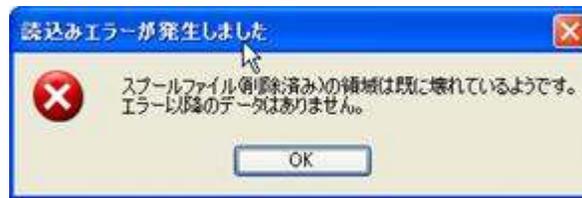
[ファイル(F) | 開く(O) | {登録名} | {登録名}-SPOOL] をクリックするとスプールファイル (SPOOL) を表示します。



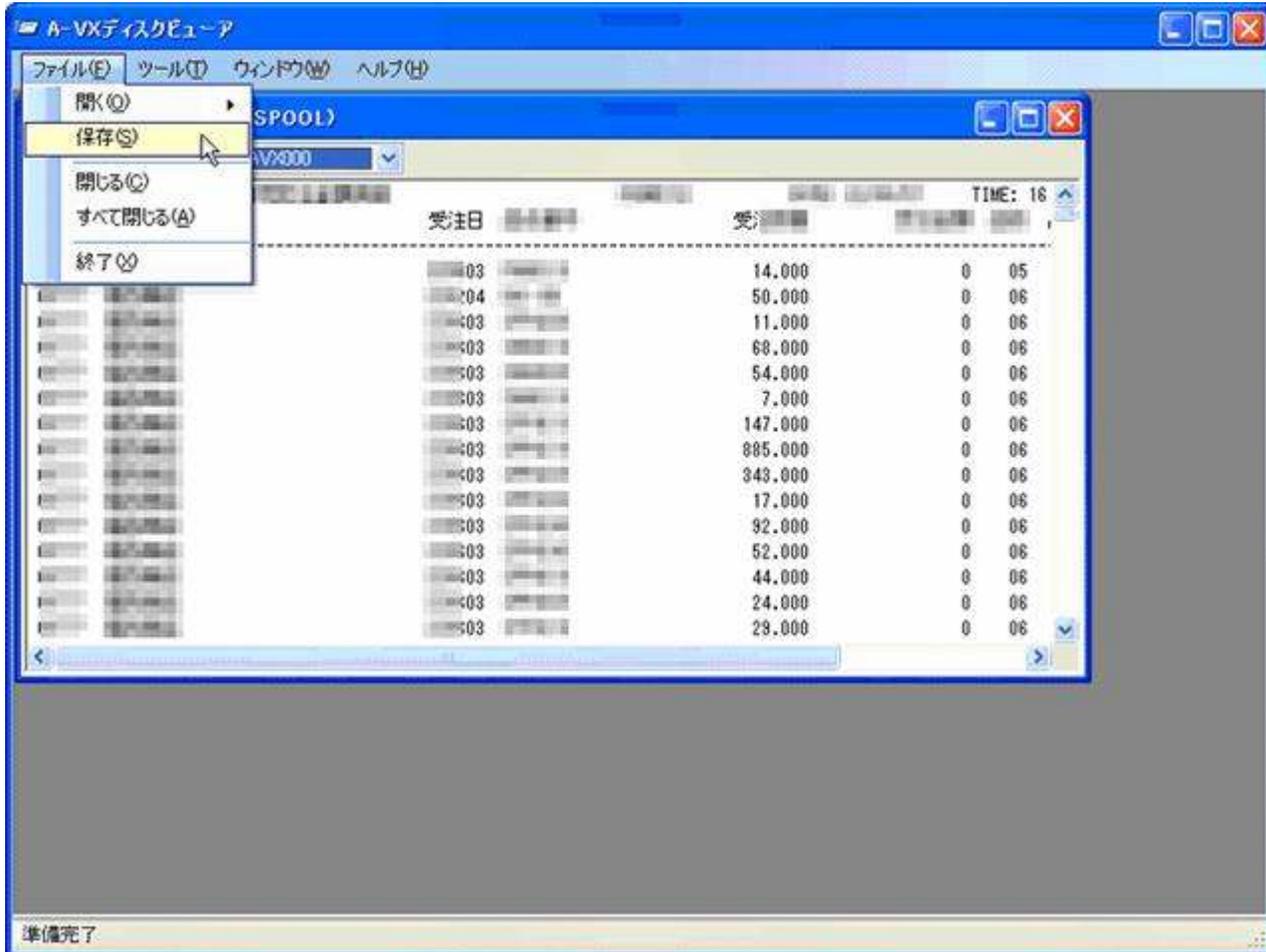
表示したいスプールファイルを選択すると内容が表示されます。



削除済みのスプールファイルも可能な限り表示しますが、下図のダイアログが表示された場合は、削除済みの領域が他に使用されている可能性があり、途中までの表示となります。



[ファイル(F) | 保存(S)] をクリックすると、テキスト形式または、PDF 形式で保存できます。



下図はテキスト形式で保存したものをメモ帳で開いたものです。Excel などで加工できます。



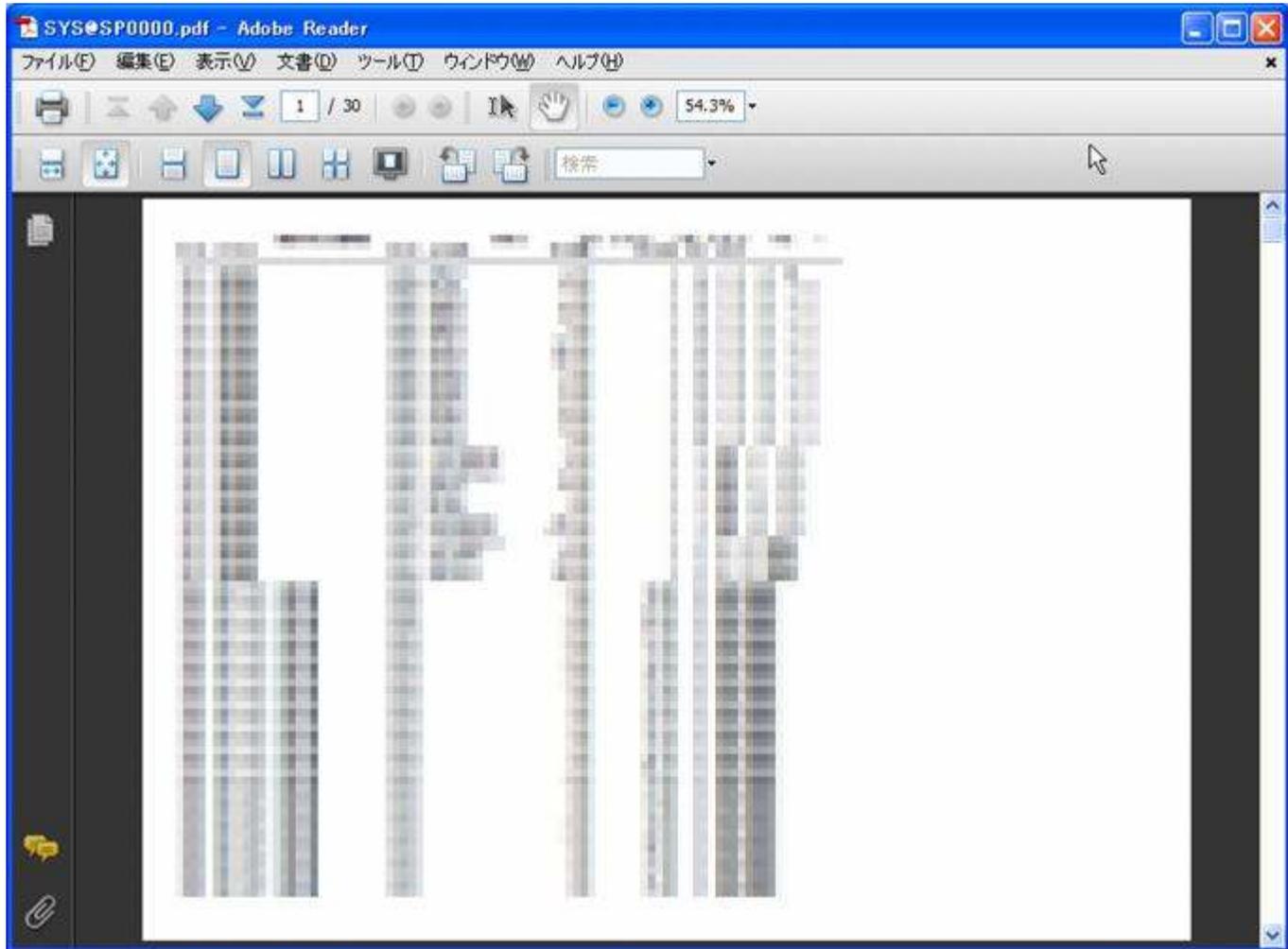
PDF 形式で保存する場合は、下記のようにファイルの保存先を指定するときに、ファイルの種類に Pdf を指定します。



上図で、保存ボタンをクリックすると、下図のダイアログが表示されます。ページ区切り等を指定して、保存をクリックします。



下図の様に PDF ビューアで開くことができます。



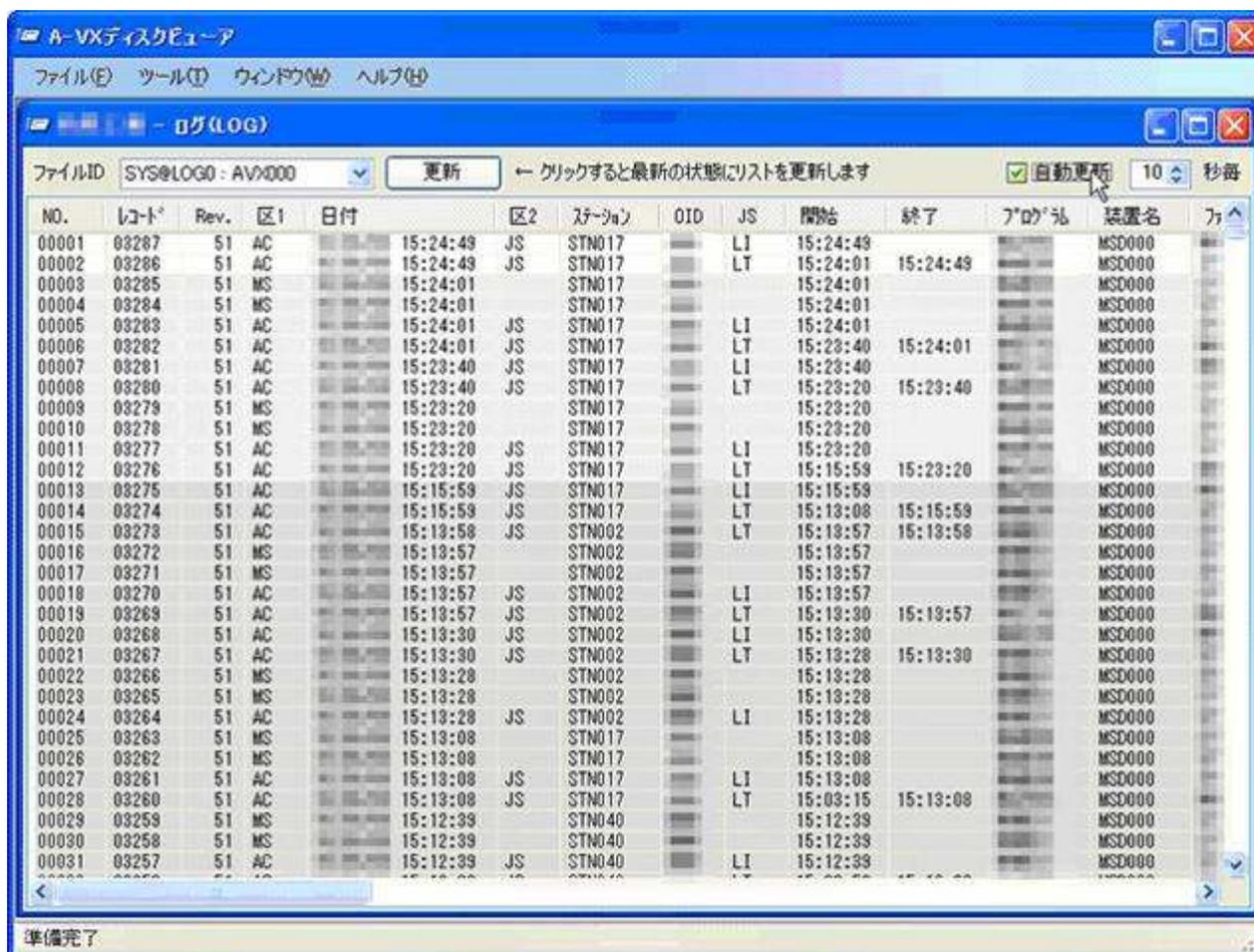
2.7 ログファイル (LOG)

[ファイル(F) | 開く(O) | {登録名} | {登録名}-LOG] をクリックするとログファイル (LOG) を表示します。

[更新] ボタンをクリックすると直ちに表示を更新します。

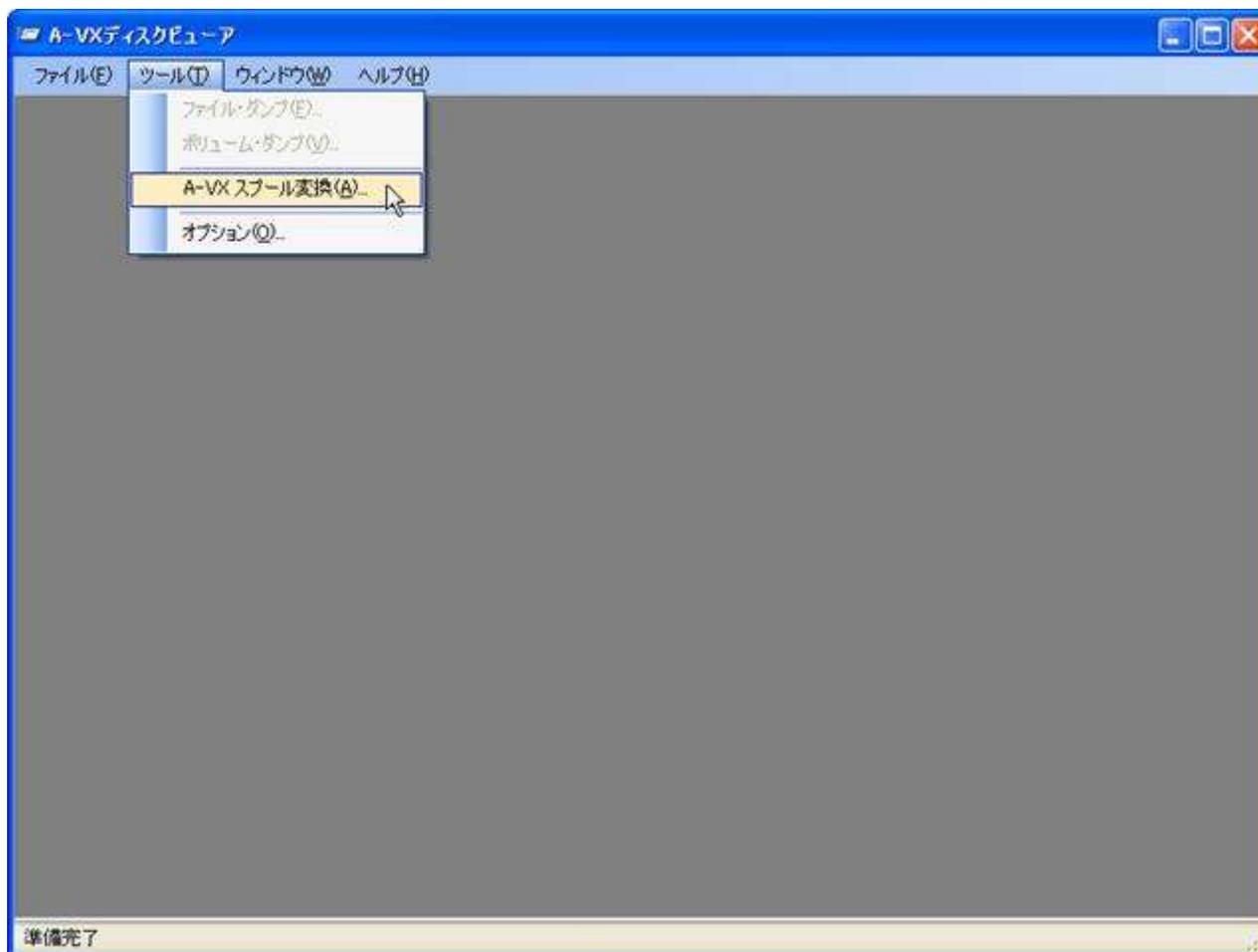
NO.	コード	Rev.	区1	日付	区2	ステーション	OID	JS	開始	終了	アドレス	装置名	方向
00001	03275	51	AC	15:15:59	JS	STN017		LI	15:15:59			MSD000	
00002	03274	51	AC	15:15:59	JS	STN017		LT	15:13:08	15:15:59		MSD000	
00003	03273	51	AC	15:13:58	JS	STN002		LT	15:13:57	15:13:58		MSD000	
00004	03272	51	MS	15:13:57		STN002			15:13:57			MSD000	
00005	03271	51	MS	15:13:57		STN002			15:13:57			MSD000	
00006	03270	51	AC	15:13:57	JS	STN002		LI	15:13:57			MSD000	
00007	03269	51	AC	15:13:57	JS	STN002		LT	15:13:30	15:13:57		MSD000	
00008	03268	51	AC	15:13:30	JS	STN002		LI	15:13:30			MSD000	
00009	03267	51	AC	15:13:30	JS	STN002		LT	15:13:28	15:13:30		MSD000	
00010	03266	51	MS	15:13:28		STN002			15:13:28			MSD000	
00011	03265	51	MS	15:13:28		STN002			15:13:28			MSD000	
00012	03264	51	AC	15:13:28	JS	STN002		LI	15:13:28			MSD000	
00013	03263	51	MS	15:13:08		STN017			15:13:08			MSD000	
00014	03262	51	MS	15:13:08		STN017			15:13:08			MSD000	
00015	03261	51	AC	15:13:08	JS	STN017		LI	15:13:08			MSD000	
00016	03260	51	AC	15:13:08	JS	STN017		LT	15:03:15	15:13:08		MSD000	
00017	03259	51	MS	15:12:39		STN040			15:12:39			MSD000	
00018	03258	51	MS	15:12:39		STN040			15:12:39			MSD000	
00019	03257	51	AC	15:12:39	JS	STN040		LI	15:12:39			MSD000	
00020	03256	51	AC	15:12:39	JS	STN040		LT	15:08:53	15:12:39		MSD000	
00021	03255	51	AC	15:12:21	JS	STN002		LT	15:10:06	15:12:21		MSD000	
00022	03254	51	AC	15:10:06	JS	STN002		LI	15:10:06			MSD000	
00023	03253	51	AC	15:10:06	JS	STN002		LT	15:10:05	15:10:06		MSD000	
00024	03252	51	MS	15:10:05		STN002			15:10:05			MSD000	
00025	03251	51	MS	15:10:05		STN002			15:10:05			MSD000	
00026	03250	51	AC	15:10:05	JS	STN002		LI	15:10:05			MSD000	
00027	03249	51	AC	15:10:05	JS	STN002		LT	15:10:03	15:10:05		MSD000	
00028	03248	51	MS	15:10:03		STN002			15:10:03			MSD000	
00029	03247	51	MS	15:10:03		STN002			15:10:03			MSD000	
00030	03246	51	AC	15:10:03	JS	STN002		LI	15:10:03			MSD000	
00031	03245	51	MS	15:09:32		STN041			15:09:32			MSD000	

自動更新のチェックを入れておくと指定の間隔で自動的にリストを更新します。今回更新分は、背景色が白で、前回、前々回分など古いものほど濃い背景色で表示されます。

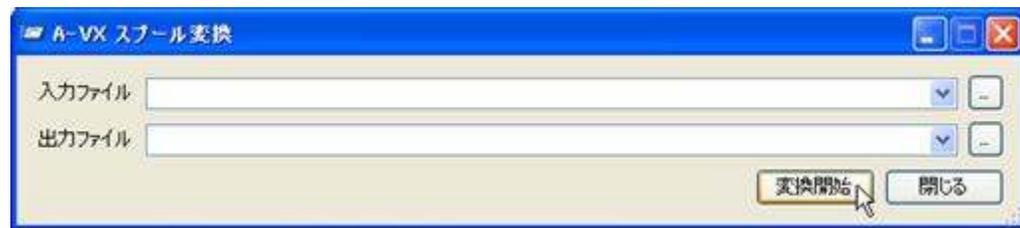


2.8 A-VX スプール変換

[ツール(T) | A-VX スプール変換(A)] をクリックするとローカルディスクなどに保存しているスプールファイルをテキストファイルに変換できます。



入力ファイルにスプールファイルを保存したものを指定し、保存先を出力ファイルに指定して、「変換開始」ボタンをクリックします。

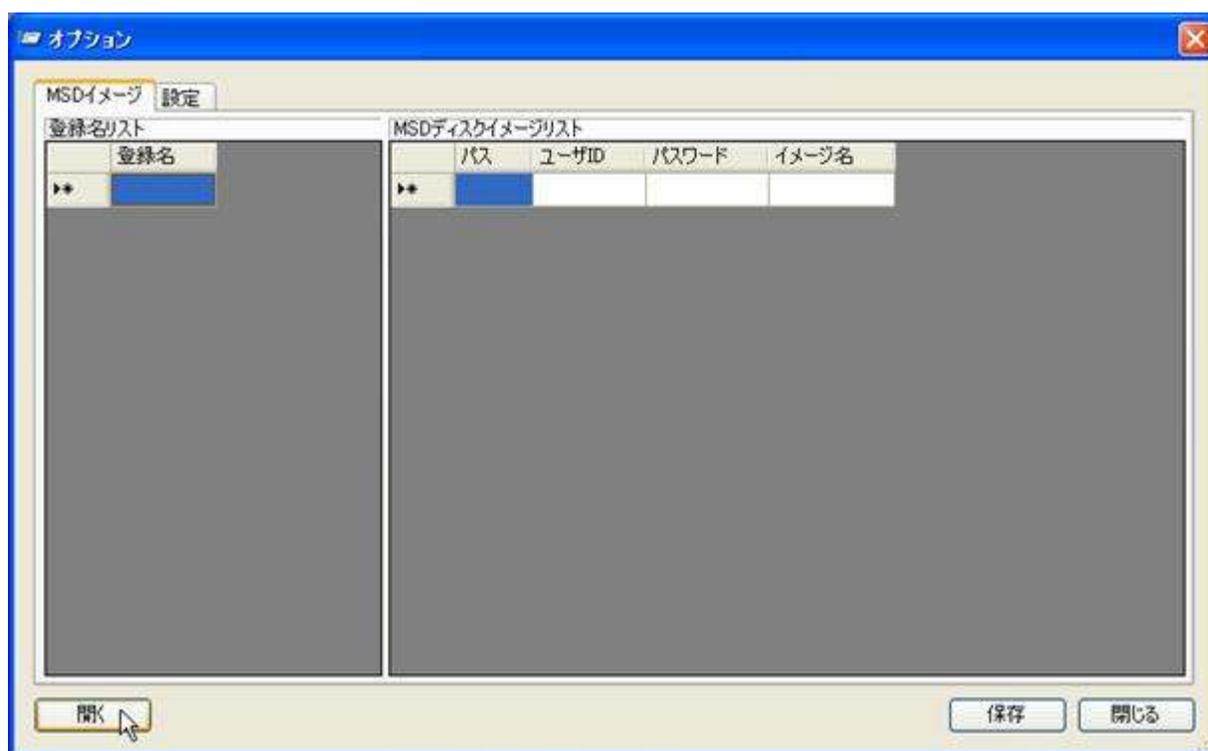


2.9 オプション

[ツール(T) | オプション(O)...] をクリックすると MSD イメージの登録および、その他の設定を変更できます。必要であれば、保存した設定ファイル“AvxVol2K.ini”を、次回のセットアップに備えて別途保存しておいてください。

2.9.1 MSD イメージ

MSD イメージの登録名リストに登録名が無い場合は、本ソフト起動時に下記のダイアログが表示されます。



既に、保存済みの定義ファイル(AvxVol2K.ini)がある場合は、「開く」ボタンをクリックして、ファイルを選択してください。

